

私たちの  
子どもたちへ

目次

福井東子ども劇場記念誌に寄せて	4
プロローグ・・・はじまりの物語	8
プレイバック福井東子ども劇場	
福井東西子ども劇場分割～福井東子ども劇場設立	12
劇場維新～生涯かかわる劇場Ⅱ「オトナコース」発足へ	14
誰のための「子ども劇場」？	16
子ども劇場はNPOになれるのか	18
福井東西合併へ～新たな時代の幕開けを願って	20
子どもに夢を一年に四回の「鑑賞例会」	22
下見の夏、企画総会の秋	24
地域を拓く～小学校区ごとにブロックを	30

人づくりはまちづくり 「地域公演フェスティバル」

32 p

思春期の育ちを支える仲間の信頼スペース 「中G・高G」

34 p

座談会 「さようなら そして」

ありがとう 福井東子ども劇場

36 p

思い出のアルバム

46 p

福井東子ども劇場規約

60 p

全鑑賞例会作品リスト

62 p

おわりに ワンダーランドとしての子ども劇場

そして「また」明日へ

66 p

## 福井東子ども劇場記念誌に寄せて

特定非営利活動法人福井県子どもNPOセンター

理事長 清水雅美

福井子ども劇場、福井東・西子ども劇場、ふくい子ども劇場と名称を変えながら福井の地で35年間活動を続けてきた子ども劇場が、2011年度末をもって閉会をし、2012年度からは、福井県子どもNPOセンターの「空とぶ●じゅうたん」事業にその志を引き継ぎます。この35年間、福井で子ども劇場の活動を支えてこられた先輩方、ともに活動したたくさんの方々と、そして最後まで運営に心を尽くしてくださった運営委員や事務局員の皆さんに心から感謝の気持ちを伝えたいと思います。どうもありがとうございます。そして本当にお疲れ様でした。

この35年間、子ども劇場の活動を支えてきたのはお母さんたちでした。わが子が豊かな文化の中で成長していくことを願って会員になった母親が、わが子が成長していくためには、わが子のまわりの子どもたちもともに成長していくことが何より大切なのだと気づき、その大切さをまわりの母親に伝えていった。「私の子どもから私たちの子どもたちへ」。それが子ども劇場の35年の歴史でした。

実は8年前、福井西子ども劇場との合併にあたり、福井東子ども劇場は、新しい「ふ



くい子ども劇場」の NPO 法人化を目指しました。社会の変化と会員の意識の変化に伴って、会員減少と会を支える層の減少が見えていたからこそその合併という転機に、福井東子ども劇場が目指したのは、共益的な会から公益的な会に舵を切り、広く福井の子どもたちのための活動をしていくことでした。しかしその思いは実現しませんでした。子どもとともに成長し子どもの卒業とともに母親も会員を卒業していく、だからこそ次の人へとバトンが受け継がれていった、それが特徴であった子ども劇場が「私の子どもと私のまわりの子ども」という顔の見える関係のなかで活動していく道を選んだのは、当然といえば当然のことでした。一方、福井県子ども NPO センターは、福井県子ども劇場協議会を経て、福井県最初の特定非営利活動法人として 1999 年に設立されました。設立当初、団体正会員はすべて県内の単位子ども劇場であり、個人正会員もほとんどが子ども劇場の会員がかつて会員であった人でした。

子どもは社会の宝です。次の世代へ命のバトンをつなぎ、未来をつくっていくために子どもほど大切なものではありません。子どもは希望であり、子どもはそのまま未来です。今、子ども NPO センターにはこの思いに共感したさまざまな人が、それぞれ、母親であつてもなくても、もちろん男性も、世代を越えて、正会員、賛助会員、ボランティア会員として活動しています。この 13 年の間に、子ども NPO センターの個人会員の輪は大きく広がりました。ひとりの市民として未来ある子どもたちのために自分にできることをしていきたい。そう願うたくさんの人に支えられ事業は年々拡大しています。一方で、団体正会員として名前を連ねていた県内の単位子ども劇場は、ひとつ、またひとつ

と姿を消していきました。ここ数年は、会員をもって活動を継続している子ども劇場はふくい子ども劇場と勝山子ども劇場だけになっていました。そのふくい子ども劇場も閉会の時をむかえました。

福井県子どもNPOセンターが設立以来大切に継続している「ふくいチャイルドライン」には、子どもたちから年間4700本(2011年度)を超える電話がかかってくる。そこから見えてくるのは子どもたちが人間関係をつくる能力の低下です。2010年4月に福井市の委託事業としてスタートした木田児童クラブで見えてくるのは、子どもたちの置かれている環境の変化と遊びの変化、指示されないと動くことができない子どもたちの増加です。この2つは密接につながっています。だからこそ、今、子どもがあそびのなかで仲間とかかわりながら成長していくこと、時に豊かな生の芸術作品にふれて心から感動できる環境をつくっていく、その大切さを社会に訴える事業をなくしてはならない。ふくい子ども劇場が閉会せざるを得ないという現実の前で、福井県子どもNPOセンターが出した結論、それは、子ども劇場の志を受け継いだ事業をセンターの中に立ち上げることでした。それは、母親という意識を越えて、ひとりの市民として、広く福井の子どもたちのために活動する人を募ることもありました。そこに手を挙げる人は必ずいる。子どもNPOセンターはそう信じていましたし、実際に手を挙げた人がいて、2012年度、福井県子どもNPOセンターの中に、子ども劇場の志を受け継いだ新しい事業「空とぶ🍄じゅうたん」が立ち上がりました。



## プロローグ・・・はじまりの物語

「子ども劇場を福井にも作るう」

その話し合いがどこで行われたか。その後、どんな人たちがどんな苦勞を乗り越えて今の「子ども劇場」があるのか。その当時のことを実際に見て知っている人がいなくなった頃になって

も、その『物語』は私たちの団体の中でたびたび話題になり、伝説のように語り継がれてきました。今から思うと、それは本当に象徴的なことでした。

だって、私たち「子ども劇場」に関わった大人たちは、地域の子どもたちと一緒に舞台芸術という形式で様々な物語を味わい続けてきたのですから。

その日から40年余り。私たちは、このまちで人から人へ思いを伝え、少しずつの力を集めて、遠くの街からキラキラと輝くような美しく楽しい極上

のお芝居や音楽を届けてくれるアーティストをお招きする活動を続けてきました。「子どもに夢を、たくましく豊かな創造性を」というスローガン

のもと、マスコミを通して家庭に流れ込んでくる商業主義的な子ども文化の在り方に危機感を抱いて立ちあがった創立メンバーの思いは、時代を

超えて生き続けていたのです。舞台鑑賞活動に加えて「自主活動」と呼ばれる様々な遊び体験をもう1本の柱として、「鑑賞」と「遊び」の2本柱で成り立ついわゆる「子ども劇場運動」は、高度経済成長の道を爆走している時期の日本各地に野火のよ



うに広がったのだと、これもまたいろんな人が同じ言葉で語る伝説でした。(注1)

そう、私たちはそんな『物語』の中にすっぽりと入って、まるで劇中劇を演じるように変わりゆく地域社会の中で小さな灯をともしてきたのかもしれない。個々の家庭に閉じこもってテレビを相手に子育てをするのではなく、隣近所で声を掛け合って共に子どもを育て合う関係を作ること。創立以来ずっと大切に受け継いできたこの姿勢は、まさに今声高に求められている「地域で子育て」そのものでした。しかし皮肉なことに、時代が私たちの活動を求めるようになったというのに、1970年代の形をそのまま踏襲した組織の制度疲労は、修復できないところまでできてしまったでしょう。「私の子どもから 私たち子どもたちへ」を合言葉に、かつて子どもだった大人たちが地域の子どもを巻きこんで遊んで、遊んで、遊びつくした福井子ども劇場は、2012年春、とうとうその歴史を閉じることになりました。

私たち親子にとって、そして地域にとって「子ども劇場」とは何だったのか。新しい時代を迎える今、「福井東子ども劇場」の歩みを記録するためにこの小冊子を残します。



下：創造団体からの創立をお祝いする電報。年代を感じます。



(注1) 創立から福井東西分割までの経緯は『福井子ども劇場20年誌』に詳しい記録があります。また、全国組織としての「子ども劇場」については「夢を生きる〜子ども劇場と歩んで28年〜」(高比良庄司著 第一書林刊)をご参照ください。



【1976年創立当時の新聞記事より】

すぐれた劇団や楽団を呼んで福井公演を実現し、子どもたちの胸を夢と希望でふくらませよう」と文化サークル「福井子ども劇場」がいよいよ発足する。福井市内の主婦らが中心になり、もう三年がかりで、会員の組織づくりに打ち込んできた。十五日午後一時半から福井市大手二丁目の県教育センターで創立総会、三十日午後一時から同市春山二丁目の市文化会館で劇団「風の子」による創立記念公演「カレドニア号出帆す！」を主催する。それはまさに、福井子ども劇場の“出帆”だ。会員は主婦、教員、看護婦、子どもら七百五十人。世話役の会員らは、いま市内宝永四丁目の飯島ビル三階にある事務局で、創立総会の準備に懸命だ。ガリ版刷りで総会議案書づくり、ポスターの点検。そのそばでは、幼児らがアイスクリームをなめながら、打ち合わせに声をはずませる母親を見守っている。

サークル創立までの足跡は―。(昭和)四十八年八月、県民間教育団体連絡協議会主催の「教育を語る夕べ」が福井市内で開かれたとき、教員と幼児を持つ母親たちは、テレビマンガのまやかしの刺激が子どもたちの創造力や感受性をむしろはげしく促している。これがきっかけになって、有志約三千人が福井子ども劇場の準備

現代っ子に夢と希望と・・・

会を結成した。同年十二月に開いた第一回例会で劇団「暴云」による人形劇「大工と鬼」(きしやのやえもん)の公演を主催した。好評で会員も三百人にふえた。

四十九年には人形劇公演など四回の例会を開いたが、会員数が伸びず、約三十万円の赤字を出してしまつた。世話役代表の室展子さんや庄野安香さんらは「自信を失いかけて、何度か劇場を存続させるかどうか話し合つた」と、当時をふり返る。しかし、公演主催だけでなく、自然の中で親と子が遊ぶパークュー大会、春まつり、写生会、指人形づくり講習会などの自主活動を盛り上げることで、会

員の輪をどんどん広げた。会員は七百五十人にふえ、赤字会計も解消した。主婦らは子どもたちのお兄さん、お姉さん役になつてもらうため、青年らのサークル活動参加を呼びかけている。

三十日に公演される「カレドニア号出帆す！」は多田徹作。NETA脚本賞などを受け、すでに各地の劇団が述べ千三百回以上も上演している。アメリカ南部を舞台に、黒人少年と白人少年の正義と友情をテーマにした冒険物語で、戦後

児童劇の名作。しかも劇団「風の子」による公演は、黒人との生活体験の豊かな永曾信夫が演出。美術は朝倉撰、音楽は冬木透が担当するなど、豊かな芸術性が高い評価を受けている。

福井子ども劇場の会費は月額二百円。「カレドニア号出帆す！」の当日会員は六カ月分の会費千二百円を納入すること。今年度は劇団公演による例会四回をはじめ、自主特別活動として、夏休み親子キャンプ、福井子どもまつり参加、クリスマス会なども予定している。



1976年5月4日付け朝日新聞記事



福井東子ども劇場の歴史を、5期に分けて駆け足で振り返ります。あなたにとって、このまちにとって、子ども劇場はどんな存在だったのでしょうか。

## 福井東西子ども劇場分割

### 福井東子ども劇場設立

1980年代、「ジャパン アズ ナンバーワン」とばかりに日本はバブル経済に湧き、この世の春を謳歌していたような時代に、子ども劇場もまた活況を呈していました。生活が豊かになり、子どもたちに良質の文化芸術体験を与えたいと思う親も多くなったのでしよう。全国的に子ども劇場の会員数が延びていた幸福な時期でした。当時、ある一定の会員数に達した劇場（組織内では単位子ども劇場のことを、「劇場」と呼んでいました）は、『分割』してさらに人数を増やす方針が全国で取り入れられていました。大きな街では市内に三つも四つ子ども劇場があるというようなケースもさらにあった時代です。福井もそれに倣い、それまでの「福井子ども劇場」を福井市を東西二つに分割することになりました。「福井西子ども劇場」と「福井東子ども劇場」の誕生です。

私たち「福井東」は、1991年5月11日に設立総会を迎えました。

会場は、福井県民会館でした。（県民会館は、中央公園に面した大ホールを持った会館でしたが、老朽化により2012年惜しくも取り壊しとなりました）総会では、秋田の劇団「わらび座」の指導のもと、会員が集まって「ソーラン節」を踊ってこれからの船出を祝いました。また、ブロックごとにお店を出して、ミニバザーのような楽しい空間も作り、会員相互の交流も図るあたたかな設立総会となりました。

同じ行政区の中で、同じ活動を行う組織が複数できるのですから、当然のごとく競争意識が芽生えます。全国津々浦々にひろがっていた子ども劇場運動のさらなる拡大のために、上部組織からのミッションに沿って『分割』となったのですが、その後、福井東西子ども劇場は様々な局面でホットな関係を繰り広げることとなります。敦賀、武生、鯖江、勝山、大野、三国にも子ども劇場が誕生しました。県内の子ども劇場が互いに連携し合い、全県各市町村を網羅する『地域公演フェスティバル』を開催するなどして、地域文化の向上のために貢献した時代でもありました。

月額の手費は大人も子どもも一律800円（4歳以上）入会金は100円でした。1976年の創立時の会費が月200円だったことを思うと、貨幣価値の変遷に驚きます。



年度	月日	出来事
1991年	5月11日	「福井東子ども劇場」設立総会
	春	地域公演全ブロック実施
	6月7、8日	大どろぼうホッツェンプロッツ（低学年例会）
	7月13日	映画会「がんばれ！がんばれ！ベンジー」「トムとジェリー」
	7月22日	シシとササの伝説（高学年例会）
	8月1～12日	サヴァイバルキャンプ
	9月28日	車のいろは空のいろ（低学年例会）
	10月9日	太郎冠者と遊ぼう（高学年例会）
	10月19日	企画総会
	12月4日	夢見のちゃら平（低学年例会）
	12月7日	Xmasミニコンサート
1992年	1月12日	インスパイヤー（高学年例会）
	2月14日	お母さんのつどい
	3月8日	ソル・アモールコンサート（低学年例会）
	3月13日	地べたっこさまや〜い（高学年例会）
	3月29,30日	もういい会
	4月26日	親子まつり
	5月	「劇場維新」審議会答申について（運営委員会記録より）
	5月4日	ナイトハイク
	5月14日	第17回定期総会
	6月21日	小さなスプーンおばさん（低学年例会）
	7月17日	UBU-BOMI（高学年例会）
	7月19日	映画会「ぞうのババル」「青葉学園物語」（2本立て）
	7月24～26日	全国大会（神戸）
	8月7～9日	子どもキャンプ
	8月7、8日	フェニックスまつり
	9月8日	花さき山（低学年例会）
	10月8日	マリimbaとパーカッション（高学年例会）
	11月8日	まつり「ともだち共和国～みんなで遊ぼう秋まつり」
12月3日	天満のとらやん（低学年例会）	
12月18日	そうべえごくらくへゆく（高学年例会）	
1993年	1月21日	あったか講演会
	1月24日	HOTアースコンサート
	3月14日	ガランピーポロン音楽会（低学年例会）
	3月25日	特別例会『歌舞伎の楽しさ～牛若丸』（前進座）
	3月19～21日	県中交
	3月26～27日	県高交

## 劇場維新

「生涯かわかる劇場Ⅱ」「オトナコース」発足へ

私たち「福井東子ども劇場」が活動していた頃は、1970年代の創立メンバーから代々受け継いだ組織の基盤が既にあるという恵まれた時代でした。活動のノウハウ、地域での信頼と人脈、事務所の備品、有形無形の財産を引き継いで人から人へと受け渡されていたのです。そんな中、子ども劇場を改革しようという動きが進められました。県内の子ども劇場の連携のために作られた福井県子ども劇場協議会を中心に討論されたそのムーブメントは「劇場維新」と名付けられ、県内合同例会の実施と、大人のための鑑賞例会の立ち上げを決定します。

福井東西分割から3年あまり。方針の決定に至る論議のたぐいに様々な摩擦と葛藤がありました。県域での会議の内容を、それぞれ各地域の仲間の元に持ち帰って話し合うことが何度となく繰り返されました。ふたつの大きな路線変更を前にして、現状の活動だけで精いっぱいだった「福井東」としては消極的な回答返すことが多かったのです。県協からの要望と会員との狭間に悩み、当時の事務局長は会議の行き帰りの

車の中で思わず涙が出て運転ができなくなることもあったといえます。

紆余曲折の果てに、「やれるところまで やるしかない」というある種悲壮な思いで「オトナコース」を伴った県内合同例会のスタートに参加することになりました。それまでの「低学年」「高学年」例会という2部構成の例会を「オトナ」と「ジュニア」に加えて3歳から例会鑑賞を保証する「キッズ」コースを加えて3部例会に変更しました。これに伴い、4歳から会費を徴収していた規約を改正し、3歳から会費をいただくこととしました。(月会費キッズ1000円、ジュニア1100円、オトナ1500円、入会金100円)

この年から、大人の鑑賞例会を支えるための財政難に苦しむ数年間が始まりました。

年度	月日	出来事
1993年	4月8日	雪をんな（高学年例会）
	4月11日	バザー
	4月17, 18日	もういい会
	6月13日	星モグラサンジの伝説（低学年例会）
	6月20日	銀河鉄道の夜（高学年例会）
	8月24日	映画会「カップの三平」
	8月27～29日	子どもキャンプ（大野・上小池キャンプ場）
	9月17日	西遊記（高学年例会）
	10月2日	リュックサック劇場（低学年例会）
	12月4日	カンジャママイム（低学年例会）
	12月15日	クエスチョン（高学年例会）
	12月23日	子どもの権利条約学習会（県協主催）
1994年	1月31日～2月15日	寒中にカルチャー
	2月20日	バザー
	3月16日	石になったかりうど（低学年例会）
	3月28日	桃太郎くんがゆく（高学年例会）
	4月4日5日	もういい会
	4月10日	さくら市
		地域公演フェスティバル（3月～）
	6月18日	ごろはち大明神（キッズコース）
	6月23日	オズの魔法使い（ジュニアコース）
	7月13日	四谷怪談（オトナコース）
	8月6～8日	子どもキャンプ
	8月27日	映画会「かっぱせどりーマーズ」
	9月10日	モダンアフリカンミュージック（ジュニアコース）
	9月16日	おだんごころころ（キッズコース）
	10月7日	リュートとチェンバロのデュオ（オトナコース）
11月19,20日	パネルシアターコンサート	
12月4日	バザー	
12月11日	ルドルフとイッパイアッテナ（ジュニアコース）	
1995年	2月20日	正しい殺し方教えます（オトナコース）
	2月26日	ザ・たがやしまショー（キッズコース）
	3月4日	パペット・ボンボン・ショー（ジュニアコース）
	3月29,30日	もういい会
	4月17日	新羅生門（オトナコース）
	4月22日	まさかのかさ（キッズコース）
	5月	忍者まつり（北部）
	6月	忍者まつり（南部）
	6月14日	魚や宗五郎（オトナコース）
	6月24日	バジャママンコンサート（キッズコース）
	6月28日	セロ弾きのゴーシュ（ジュニアコース）
	7月27日	映画会「チロヌップのきつね」「走れメロス」「鬼がら」
	8月28日	幸福（オトナコース）
	8月	子どもキャンプ
	9月14, 15日	トラックとらすけ（キッズコース）
9月28, 29日	ズッコケ三人組（ジュニアコース）	
11月16,17日	しのだづま考（オトナコース）	
12月2日	ゆめみちゃり（ジュニアコース）	
12月10日	バザー「笑うバザーに福来る」	
1996年	1月	うしろの正面
	1月	子どもの権利条約学習会
	3月21日～5月12日	地域公演フェスティバル
	3月4,5日	フタをあければ夏のかぜ
	3月10日	保坂展人講演会「いじめよ、とまれ～子どもの人権を守るために」
	3月14, 20日	あやとじろきちのおおかみ（キッズコース）
3月16日	パパあべこべぼく（ジュニアコース）	

誰のための「子ども劇場」？

膨らみ続ける赤字〜ピンチはチャンスか？

「子ども劇場は、子どものためだけの劇場ではない」と始まったオトナコース例会。福井県には他府県のような「市民劇場」がなく、演劇と言えば福井出身の宇野重吉さんの「民藝」のみ公演があるような状態だったため、子ども劇場で子どもたちのための鑑賞の機会を作ってきた人たちが、子どもの手が離れてから「大人の鑑賞に堪える作品を」と切望されたのも無理のない事でした。黒柳徹子さんや渡辺美佐子さん、加藤健一さんや山本学さんといったビッグネームの俳優さんたちを招き、豪華な舞台作品を福井市だけでなく丹南、嶺北、奥越へと県内複数公演で招聘することとは、地域の文化力向上のために大きな貢献を果たすこととなりました。誇るべき成果をあげられた当時の運営担当者のみなさんの熱意とご努力に、心からの敬意を表します。

しかし、その一方で創立以来のミッションであった「児童文化の創造発展」にかける力が分散してしまったのもまた事実だったのです。よく知られているように福井県の共働きの率は全国一位であり、子ども劇場の運営を担っていた専業主婦の絶対数が減っていることを肌で感じるような時期でした。近い将来、必ず訪れる

であろう担い手不足に対処できるように、これまでボランティアの力で運営していた体制をスタッフ化へシフトするなどの方法を考えていかないと、この先組織の運営が成り立たないのではないかと。気持ちには「子ども中心の活動に専念したい」と思いつつ、受け入れた運営方針をクリアするために大人の例会鑑賞会員を勧誘するという矛盾を孕んだ時期でした。

毎年発生する膨大な赤字と、それを解消するための収益事業の数々。「文化にはお金がかかる」ということを、身を持って知った私たちでした。福井東創立以来、運営を支え続けてくれた事務局長の町原さんにお給料を払いきれなくなったのもこの時期でした。事務局レイオフという決断を迫られた苦難の時代です。

同時に、苦しいからこそ本来何に力を集中するべきかを、真剣に考える必要に迫られた時期でもありました。神戸で起こった児童殺傷事件を受けて、福井市周辺の子どもに関わる市民団体に声をかけて実施した「子どものためのフェスティバル」(1998.5.5)や、定期的に行う子どもたちの諸問題についての勉強会などで、2000年以降の新しい動きへの布石を準備できたように思います。また、赤字解消のための収益事業実施により、活動推進のため不可欠な資金調達ノウハウも、ずいぶん蓄積されました。「ピンチはチャンス」の時代であったかもしれません。

年度	月日	出来事
1996年	4月	さくらまつり、コープフェス出店
	6月8日	オバケちゃん (キッズコース)
	6月18日	ニノチカ (オトナコース)
	6月23日	中岡はどこぜよ (ジュニアコース)
	6月	キッズお茶会
	7月26日	映画会「わたし5等になりたい。」「パンダコパンダ」
	7月20.21.22日	全国大会 (山口)
	8月	子どもキャンプ (勝原キャンプ場)
	9月7日	幻燈辻馬車(オトナコース)
	9月16日	ドラマンガーズ (キッズコース)
	9月23日	ジュニー (ジュニアコース)
	10月5日	ナイトハイク
	10月	ひとり語り
	11月5日	わたしはシャーリーバレンタイン(オトナコース)
	11月9日	まつり「ともだち共和国'96～変身してあそぼう！」
	11月23日	でこぼこひよろりん (ジュニアコース)
12月1日	うたのゆうえんち (キッズコース)	
1997年	1月	ドラマスクール
	1月	シュタイナー教育勉強会
	2月20日	たかはしべんコンサート
	2月	「賢治の学校」勉強会
	3月3日	ザ・ニュースペーパー(オトナコース)
	3月12日	とびだせ乱太郎 (ジュニアコース)
	3月16日	バザー「笑うバザーに春来たる」
	3月28日	風の子バザール (キッズコース)
	4月	もういい会
	5月31日	ナイトハイク
	6月28日	エルマーと16ぴきのりゅう (キッズコース)
	6月6日	パノラマアワー (ジュニアコース)
	7月9日	カッコウの巣の上を (オトナコース)
	7月	人形劇団とんがらし
	7月28日	映画会『地球が動いた日』
	8月1～3日	子どもキャンプ (夜叉が池キャンプ場)
	9月26, 27日	キマグレサーカス (キッズコース)
	9月9日	ジグの空想音楽会 (ジュニアコース)
	9月30日	間違いの喜劇 (オトナコース)
11月8日	まつり「秋だ！祭りだ！！」 (県青少年センター)	
1月	MOTHER (オトナコース)	
12月7日	バザー	
1月2月	ベンガル虎の少年は・・・ (ジュニアコース)	
1998年	1月	小さい劇場 (キッズコース)
	1月	ドラマスクール
	2月27.28日	たかはしべんコンサート
	3月	魔法の森の物語 (キッズコース)
	3月	ゲゲゲの鬼太郎 (ジュニアコース)
	3月	十二人の怒れる男たち (オトナコース)
		勉強会 (年間を通して11回開催)

子ども劇場はNPOになれるのか

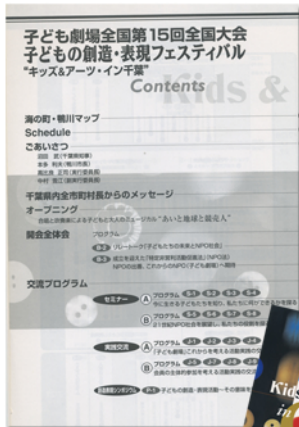
全国の足並みが乱れ始める

この頃になると、会の記録の中に「NPO」の文字が頻繁に見えるようになってきます。1998年に「特定非営利活動促進法（NPO法）」が成立するまでは、子ども劇場のような非営利団体が法人格を持つことは大変ハードルの高いことでした。1995年の阪神・淡路大震災後に課題とされた、民間の非営利団体への認可を求める動きに対して、全国の子ども劇場は法整備の必要性を強く要望しました。福井県子ども劇場協議会は1999年に「福井県子どもNPOセンター」と名称を改め、県内で初のNPO法人として認証を受けました。

1998年7月に開催された全国子ども劇場おやこ劇場連絡会第15回全国大会」では、NPO時代への展望が語られました。その後、創造団体との関係で微妙な温度差が目立つことが多くなりました。「今までの活動のままでも、十分に公益性がある」「NPOとして自信を持って社会に貢献できる」という声はあがるものの、なかなか単位劇場として法人格を取得する団体が現れず、反対にそれまで一枚岩の結束を保っていた全国の連携に亀裂が徐々に生じ始めるという、皮肉な結果を

生むこととなります。

1999年に「オトナコース」が大人のための鑑賞団体『ステージふくい』へと独立することになり、長く苦しんだ「子ども劇場」でありながら大人の鑑賞例会のために力を削がれるという悪循環から解放されました。21世紀を迎え、何か新しい希望が生まれるのではないかとという期待を持っていた時代だったように思います。



1998年7月に開催された「全国子ども劇場おやこ劇場連絡会第15回全国大会」(千葉県鴨川市)パンフレット全体会テーマは「NPOの出番 これからのNPO(子ども劇場)へ期待」



年度	月日	出来事
1998年	5月5日	子どものためのフェスティバル
	6月25日	ごきげんなすてご (キッズコース)
	6月13日	スノーブレーク (ジュニアコース)
	6月21日	ザ・クラシック笑 (オトナコース)
	7月	映画会『長くつしたのピッピ』
	7月	キッズお茶会
	7月	笑学校
	7月20～22日	第15回全国子ども劇場おやこ劇場全国大会 (千葉県鴨川市)
	8月	キャンプ (?)
	9月19日	14ひきのひっこし (キッズコース)
	9月29,30日	唐来参和 (オトナコース)
	9月	絵本について
	10月4日	ポケット寄席 (ワークショップ)
	10月	秋の登山
	10月	余暇の過ごし方講座
	11月18日	酔いざめお園 (オトナコース)
	12月12日	お星さまの色えんぴつ (キッズコース)
	12月1日	石の馬 (ジュニアコース)
	12月	バザー
	1999年	2月27日
2月7日		人形劇団とんがらし
2月14日		コマのサーカス
2月28日		おもちゃワンダーランド
3月22日		耕ちゃんのたがやしましょう (キッズコース)
3月26日		海にしずんだおに (ジュニアコース)
3月7日		ルルル ルラルさん (キッズコース)
3月14日		おれたちは天使じゃない (オトナコース)
4月		「オトナコース」が『ステージふくい』へ分離独立
5月22日		まつり「ふしぎ?ナンダ?Land」
5月29,30日		ナイトハイク
6月8日		ADコース設立記念講演会「逃げ場を求める子ども達」
6月19日		ミスター・シャドウ (ジュニアコース)
6月25日		ママったらわたしのなまえをしらないの (キッズコース)
7月27,28日		映画会「ハッピー・バースデー」
8月6～8日		子どもキャンプ (勝原キャンプ場)
8月25,26日		親子de自然体験
9月11日		ピンクのドラゴン (キッズコース)
10月9日		KOUSKY (ジュニアコース)
11月5日		ダンスワークショップ
11月13日	いきててよかった (ジュニアコース)	
11月23日	バザー「バザー・イズ・ファン!」	
12月5日	ダンス・イズ・ファン (ジュニアコース)	
2000年	1月25日	子育て勉強会
	2月21日	ブレイルーム茶話会
	3月12日	うさぎどん・きつねどん (キッズコース)
	3月16日	おれがあいつで、あいつがおれで (ジュニアコース)
	3月26～5月13日	地域公演フェスティバル (8地区)
	4月4日	もういい会
	6月8日	ワクワクさん工作教室
	6月10日	ナイトハイク
	6月16日	ホモイの涙朗読会
	6月24日	ホモイの涙 (ジュニアコース)
	7月2日	それゆけクッキーマン (キッズコース)
	8月4～6日	子どもキャンプ (夜叉が池キャンプ場)
	8月19日	悔悟の記録
	8月24,25日	親子キャンプ
	9月13日	リュウのオールド (ジュニアコース)
	9月22日	シャボン玉博士 (キッズコース)
	11月11日	エルマーまつり「さあ、でかけよう!エルマーの島へ」
	12月2日	おひさま劇場 (キッズコース)
	12月22,23日	クリスマス映画会「エルマーの冒険、スノーマン」
	2001年	1月13日
3月3日		水嶋一江+ストリングラフィアンサンプル (ジュニアコース)
3月20日		こぶたのぶうぶ/おたまじゃくしの101ちゃん (キッズコース)
3月24,25,26日		第1回全国子どもNPOフォーラム (鳥羽市)

## 福井東西合併へ

## 新たな時代の幕開けを願って

NPO法が成立してから、私たちのような団体にも助成してくれる基金が増えてきました。なぜか「鑑賞活動」には直接助成が認められないため、鑑賞に絡めた遊びなどの「直接体験」を企画することで会費収入や物販以外の収益の道が開かれた時期でした。

会の長い歴史の中で培ってきた子ども文化に関わる様々なノウハウを財産に、会員にとどまることなくもつと広く地域一般の人達に貢献できる団体に成長する。こんな目標を掲げ、今までのように地域で仲間をつなぎながら、NPO法人格取得を視野に入れる方針を進めてきました。そのためには、お互いにそれぞれ会員数を減少させている「福井西」と「福井東」という二つの子ども劇場が共に協力する体制が必要なのではないか。何度も話し合った結果、福井東西の子ども劇場を合併して、「ふくい子ども劇場」という新たな団体に発展させることを決めました。

市内に二つの子ども劇場があることで、地域に深く根ざして

きたブロック活動のメリットを壊す事が無いようにということ、合併の条件でした。規模が大きくなっても、人と人の絆は、直接会って共に話し合うことから作られるという原点を大切にしたいという思いが強く感じられました。



2004年3月 新名称を発表する福井東西子ども劇場運営委員長兩名 (宇羅弘美さん・東/宇賀地真紀さん・西)



年度	月日	出来事
2001年	4月23日	ワクワクさんとつくってあそぼう
	5月8日	丹下進講演会&人形劇ワークショップ
	5月26日	竹竹 (takedake) (ジュニアコース)
	6月2日	3びきのこぶた (キッズコース)
	6月9~10日	ナイトハイク
	6月22日	あやうしズッコケ探検隊 (ジュニアコース)
	6月27日	教育を考える座談会
	7月8日	「3びきのこぶた」表現あそび
	7月14日	ズッコケぼうけんごっこ
	7月26日	映画会「MARCO」
	8月5~7日	子どもキャンプ
	9月30日	さんしょう太夫 (ジュニアコース)
	10月21日	まじよのフィフィⅢ (キッズコース)
10月27日	まつり「マジカルランド」	
12月2日	きつね先生のふしぎ・・・? (ジュニアコース)	
12月8日	パザー	
12月16日	いやだいやだのきかんぼひよこ (キッズコース)	
2002年	1月26,27日	ドラマスクール
	3月9日	マギー隆司「マジック笑」 (ジュニアコース)
	3月14~5月19日	地域公演Dream of a Child ほか
	5月25日	ストローミュージック&リコーダー
	5月29日	絵本をもっと楽しむ講座
	6月1日	ナイトハイク
	6月1,8,11,15日	「エルマー」パネルシアター&クラフト
	6月21日	エルマーのぼうけん (キッズコース)
	6月30日	「エルマーのぼうけん」表現あそび
	7月6日	笑学塾 (ジュニアコース)
	7月25日	映画会「えっちゃんのせんそう」
	8月10~12日	子どもキャンプ
	8月23日	縄文人になろう (丸木舟乗船ダイキャンプ)
	9月7日	影絵あそびワークショップ
	9月20,21日	伊藤文悟のひとり芝居 (ジュニアコース)
	9月28日	ポケット劇場 (キッズコース)
	10月14日	ふくいいうららんKIDS
	11月2~3日	縄文人になろう (1泊体験)
	11月5日	人形劇ワークショップ
11月6日	「ばばばあちゃん」事前講演会	
11月22日	Short Stories (ジュニアコース)	
12月22日	ばばばあちゃんのいそがしいよる (キッズコース)	
2003年	1月	表現あそび
	2月8, 9日	ドラマスクール (低学年、高学年)
	3月9日	イソップランドの動物たち (キッズコース)
	3月10日	UBU-BOMI (ジュニアコース)
	3月	紙芝居づくり
	5月17日	うたがみえる きこえるよ
	5月28日	絵本講座
	6月14日	しりたがりやのソウさん (キッズコース)
	6月27日	西遊記~悟空誕生
	7月24日	映画会「もも子、かえるの歌がきこえるよ」
	8月	子どもキャンプ
	9月14, 15日	ケロボンス・コンサート (キッズコース)
	10月12日	どれみふあたんけんたい発表会「サウンド・オブ・ミュージック」
	10月18日	ルドルフとイッパイアッテナ (ジュニアコース)
11月1日	子どもまつり~タイムスリップ	
11月28日	雪をんな (ジュニアコース)	
12月20日	あとむの時間はアンデルセン (キッズ、ジュニアコース)	
2004年	1月24日	タイムスリップ part2
	2月21, 22日	うみはぶくぶく (キッズコース)
	2月28, 29日	ドラマスクール
	3月5日	リーダーズシアター お話がいっぱい (キッズ、ジュニアコース)
	3月20日	わんぱく寄席 (ジュニアコース)
5月8日	「福井県」閉会総会~「ふくい子ども劇場」設立総会	

## 子どもに夢を！ 年に四回の「鑑賞例会」

子ども劇場の「例会」とは、舞台芸術作品を鑑賞すること。1976年の創立以来ずっと大切にしてきた活動でした。本格的な音響・照明を使った大きなホール作品から、体育館や会議室などの「平土間」を会場として使用する小規模作品まで、さまざまなジャンルの作品を鑑賞しました。

(巻末に全鑑賞例会作品リストを掲載しました。ご覧ください。)



「うみはぶくぶく」(くわえばべっとステージ) 2004/2/21



子どもたちが開演のごあいさつ。  
「例会当番」担当ブロック会員が趣向を凝らした挨拶を考えて用意します。

3つの  
おやくそく

「たべない」「たたない」「しゃべらない」



終演後には、観客を代表して例会お当番から劇団の方に「プレゼント」をお渡します。



劇場内での「三つのおやくそく」  
「たべない」「たたない」「しゃべらない」  
マナーを守る、良い観客への第一歩です。



毎回の例会の実施に際して、各ブロックが順番に「例会当番」を担当しました。創造団体との打ち合わせに沿って、会員が手分けをして「搬入・搬出」「小夜食（楽屋に用意する軽食のこと）」「会場作り」「受付」などたくさんの仕事をこなします。

平土間作品の時は客席作りも大切な仕事です。小さい子は前に、大人は後方の椅子席に座ってもらいます。開演を待つ楽しい時間です。



終演後、お芝居に使った人形を見せてもらう子どもたち。



大きい子供たちは、受付の仕事もお手伝いします。みんなで例会を盛り上げます。





鑑賞例会はこのように決定しました。

# 下見の夏、企画総会の秋

作品の下見／企画パンフ作成／全会員アンケート

怒涛の企画総会／日程調整／例会平日まで

既にいろいろなところで語られたことですが、子ども劇場をふり返って思うのは、「良く出来たシステムだったなあ・・・」ということです。子どもの生活圏にサークル、ブロックを作るということ、会員相互の交流をはかる工夫、子ども文化に関わる調査研究、大きな単位で取り組むべき問題は、地方連／全国へと組織のつながりがあったこと等々。長い歴史の中で作り上げられた様々なシステムがあったのですが、中でも鑑賞例会の企画実施運営については、全国をつなぐ連絡会のもと、創造団体との契約をスムーズに行える取りきめがなされており、次々と担い手が入れ替わる単位組織のバックアップ体制が整っていました。小さな町の小規模ステージでも、「見たい」という希望があれば、旅公演のスケジュールを調整してもらえるシステムは、企画側にも劇団側にもメリットのあるものでした。

## 例会が決まるまで

7月 例会パンフより作品のピックアップ  
(ピックアップ作品の情報収集)

8月 例会企画作品候補パンフレット作成

9月 会員アンケート ⇒ アンケート集計  
企画全体委員会【作品について説明】  
⇒ サークル案づくり

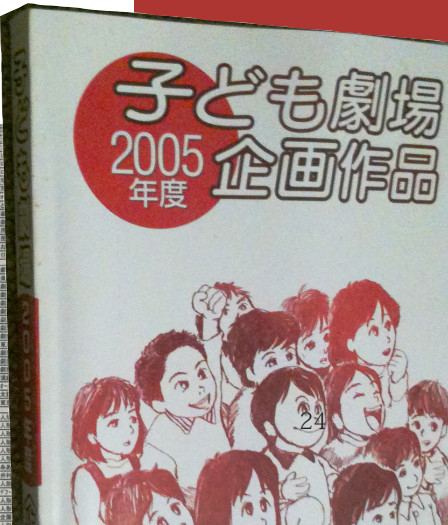
10月 企画総会にて例会作品案決定

11月 中日本センター作品時期調整  
⇒ 全国センターにて日程調整

(第24回定期総会資料より転載)



音楽	鑑賞	演出	監修	他
K008	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K009	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K010	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K011	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K012	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K013	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K014	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K015	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K016	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K017	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K018	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K019	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K020	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K021	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K022	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K023	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K024	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K025	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K026	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K027	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K028	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K029	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K030	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K031	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K032	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K033	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K034	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K035	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K036	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K037	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K038	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K039	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K040	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K041	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K042	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K043	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K044	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K045	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K046	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K047	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K048	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K049	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		
K050	熊のくまの冒険の冒険の冒険	熊		



【資料 1】

福井東西子ども劇場の合併を控えた 2003 年度企画のための総会資料。  
 現会員数ではなく、「基礎数」と呼ばれた目標会員数をベースに次年度予算を立てる  
 方法で、作品を選んでいました。

企画総会は、「どれだけ会員を集められるか」と「子どもたちとどの作品が見たいか」  
 の間で揺れるせめぎ合いの場でもあったのです。

【企画総会の部】

1. 2003年企画例会経費と基礎数について(運営提案)

2003年は、福井東西子ども劇場と福井西子ども劇場の合併準備の年として、以下の方法で例会経費を算出します。

目標会員数(基礎数)はキッズ東300人 西250人、ジュニア東300人 西250人、AD 東50人の合計1150人(B案)とする。

例会会費をひとり月 700円と定め、例会経費を960万とする ※注)例会経費には例会諸経費 30万を含む

700円×人数×12ヶ月 概し、ADコースは600円	
<b>例会経費(A案)</b>	
K520	4368000
J520	4368000
AD30	216000
計	8952000
<b>例会経費(B案)</b>	
K550	4620000
J550	4620000
AD50	360000
計	9600000
<b>例会経費(C案)</b>	
K580	4872000
J580	4872000
AD50	360000
計	10104000

2. 企画の方針

- ◆原則としてひとり年間 4 本を保証する(AD コースは 3 本)  
 (キッズコースは、子どもの発達に応じて小規模作品を 4 本以上入れることも認める)
- ◆特定のジャンルに偏らない
- ◆高学年、中学生をカバーする作品を 2 本入れる
- ◆チケット売りをできる作品について考える
- ◆全会員で鑑賞するファミリー例会を入れても良い
- ◆【他団体との共催作品】  
 ジュニアコース 2 期作品は  
 福井芸術文化フォーラム主催作品「ふたごの星」(番号なし 企画パンフレット掲載なし)に決定する  
 公演日時 2003 年 8 月 30 日 文化会館大ホール  
 経費は、予想されるチケット価格 3000 円×鑑賞を保証する人数で算出する。  
 (ex.B 案のジュニアコース、AD コース登録者のみを対象とする場合=3000 円×600 人= 万)
- ◆【県内合同作品】  
 県内子ども劇場の話し合いの中で要望が一致した K219「リーダーズシアター」(幼児・低学年バージョン、高学年バージョンあり)を企画案の中に入れてください。作品の質がニーズにあっている事に加えて、県内の子ども劇場が同じ作品を取り組むことで、交通運搬経費を合理化することができます。  
 (どちらか一方のコース対象の場合=2st 万、全体で鑑賞する場合=3st 万)

【資料2】 慢性的に赤字を抱えていたので、企画総会には臨時総会がお約束のように  
 についており、今期の赤字の対策を話し合いました。

【臨時総会の部】

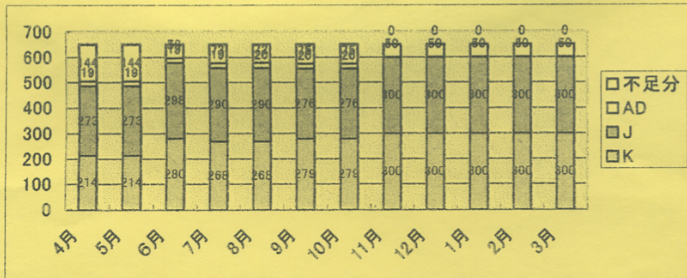
◆上半期決算と予算修正案について 赤字の見直し 72万 ①— (②+③)  
 会員が基礎数に達しないために生じた赤字 (4~9月) 763,200円  
 10月以降も現状のままの会員数で推移した場合の赤字 540,000円  
 合計 1,303,200円①

「エルマーのぼうけん」「笑学塾」例会経費マイナス 293,120円②  
 予算になかった助成金収入 29,7000円③

＜修正予算案＞予想される赤字を次の1~4の方法で解消しましょう  
 対策その1

会員拡大75人！

11月22日(金)「ShortStories」と、12月22日(土)「ばばばあちゃん」で  
 75人×1200円×5ヶ月= 450,000円



対策その2

「ShortStories」チケット発行、3,000円×50枚 = 150,000円

対策その3

経費節減、のりいれ会費収入、物品販売 など 120,000円

もし、11,12月で会員数が目標に達しない時は、

対策その4

特別収益活動 (例：バザーなど) 会費不足分



【資料3】「お弁当箱」と呼ばれた、企画メニューの提案書。各サークル毎に、来期子どもたちと見たい作品を話し合って、総会に臨みました。

**企画案を作ろう 例1**

3才・4才・5才・6才・1年・2年・3年・4年・5年・6年・中学生・高校生

I	うみはぶくぶく	ルドルフとイッパイアッテナ	
II	めっきらもつきら		ふたごの星 ( )
III	太郎くんとまつぐおばあさん		西遊記 ( )
IV	リーダーズシアター ( )		マジックシアター ( )
チケット (マジックシアター) 価格 (3000円)			合計 938 万

**企画案を作ろう 例2**

3才・4才・5才・6才・1年・2年・3年・4年・5年・6年・中学生・高校生

I	ケロボンスコンサート		西遊記 ( )
II	うみはぶくぶく		ふたごの星 ( )
III	リーダーズシアター ( )		雪をんな ( )
IV	どうぞのいす ( )	太郎くん ( )	地べたっこさまや〜い ( )
チケット (雪をんな) 価格 (2500円)			合計 838 万

あなたのサークルで希望する企画案を書いて、10/11までに事務局に提出してください  
 (「この作品だけはいれてほしい。残りは総会委任」という案も認めます。)

( )ブロック ( )サークル

3才・4才・5才・6才・1年・2年・3年・4年・5年・6年・中学生・高校生

I (6~7月)	
II (8~9月)	ふたごの星 (3000円× )人
III (11~2月)	
IV (3月)	

☆チケット売り対象作品 ( ) 妥当なチケット価格 ( ) 円

合計  万

# 花いちもんめ

福井県子ども劇場事務局ニュース  
 基礎数 キッズ300ジュニア300A D 50  
 現在会員数 キッズ268ジュニア270A D 19  
 合計 557人

## 企画総会が終わり、2002企画が決定しました。

あなたの希望していた作品はいついていでしょうか？  
 来年度も、子どもたちと一緒に楽しい活動をつくりましょう！

10月16日(水) ユーティふくいにおいて、2003年企画を決定する企画総会が行われました。福井県子ども劇場の将来的な合併も正式に決まり、来年度は旧作品を継承して交流を進める年になります。会員規模が大きくなって豪華な作品が取れるようになっても、基本は地域での人と人とのつながりであることを忘れないように日々の活動を大切にしてください。

3才・4才・5才・6才・1年・2年・3年・4年・5年・6年・中学生・高校生

I期	しりとりやめぞうどん (人形劇団ブーク)	ルドルフとイッパイアッテナ (オールスタッフ イッツフォーリーズ)
II期	ケロポンズコンサート (カエルちゃんオフィス)	西遊記～悟空誕生の巻 (人形劇団むすび座)
III期	あとむの時間はアンデルセン (劇団あとむ)	雪をんな (人形劇団ちんどん)
IV期	うみほぶくぶく (くわえバベットシアター)	リーダーズシアター (いちよう座)
		わんぱく密席～奇傑牧山繪巻 (日本伝統芸能を守る会)

企画総会の結果を伝える月刊の事務局ニュース「花いちもんめ」



迫真の演技。終演後には、役者が人形とともにロビーで子どもたちと交流。興奮醒めやらぬひとときです。



人形劇団むすび座(名古屋)の代表作『西遊記～悟空誕生の巻』販促物。

カラーチラシやポスター、パンフレットなどは劇団から購入し、会員拡大時期には重点的にコストをかけて宣伝に励みました。

日中合作人形劇第2弾

# 西遊記

## 悟空誕生の巻

●作・演出・脚本 矢倉雄

観て！ 聴いて！ 感じて！

「ソウゼン」のあと、  
 ショコフス「西遊記」に必死に死して  
 子ども劇場をもっともっと楽しもう!!

2003年6月27日(金)  
 18:00～開場 / 18:30～開演  
 福井市文化会館大ホール

会員大募集中!  
 お友達をお誘いください!!

日中合作人形劇第2弾

# 遊記

## 悟空誕生の巻

日中合作人形劇第2弾

むすび座

一期一会の例会当日 子どもたちの心の栄養になりますように

ホール作品として人気の高かった演目「西遊記～悟空誕生の巻」(むすび座・2003年6月7日文化会館)の様子をブレイバック



## ■「西遊記～悟空誕生の巻～」 人形劇団むすび座

広島市青少年センターホール ・ 2002/3/3 (広島・高橋恵子)

「西遊記」約一年ぶりの再会である。各地の公演を重ねて、見違えるほど魅力的な悟空が誕生した。根はいい奴なんだけど、こいつあんまりもの考えてないねーっていう印象を受けるいま時の若い奴そのまんまの悟空、ガキ大将ってより、やんちゃ坊主だ。

出遣いの役者たちは、顔だけ出して黒装束だからいやでも表情が目立つ。悟空役の森が、相手役にむけていたずらっぽい表情を浮かべ、得意そうな顔つきになる。そこになんとも憎めないいたずらっ子の悟空が、出現するのだ。戦いのシーンでは、巧みな如意棒でダイナミックな立ち回りを見せ、客席を疾風のように駆け抜ける若々しい悟空像である。

彼の意のままに推参する金斗雲、会場の青少年センターは、客席のスロープがかなり急である。その客席後方から、見下ろすような舞台に向けて風を切って飛ぶ金斗雲はなかなかの迫力。おおきく逸れたかに見えた金斗雲が、客席上空で急旋回し見事に悟空のもとに着いたとき、客席は拍手大喝采だった。

できれば、いつまでも負けず嫌いのやんちゃ坊主ではなく、いやらしいほど傲慢だったり、うぬぼれの強さなんかももっともっと演じて見せて欲しい。舞台が変わっていく悟空が見たいのだ。玉帝一味がなんだか、いじめっ子集団みたいだもの。

一陣の風が吹きすぎていくようなさわやかな悟空である。どうぞご期待を。

一年間の、各地での公演が、この魅力的な「西遊記」の舞台を育てたのだと思います。鑑賞団体でも、もちろん興行師でもない、各地のおよこ劇場子ども劇場は、なまの舞台を屈けるだけでなく、舞台を育てていける可能性をたっぷり持っている、そう私は思っています。

左：『季刊げきじょう』に掲載された「西遊記～悟空誕生の巻～」劇評。全国連絡会から発行されるこの機関誌に掲載される作品情報も下見情報とともに次年度の企画を決定するための重要な参考になりました。

「西遊記」は何度も再演された名作であっただけに、演出、役者ともに前作と比較されて初演時に評価が分かれた作品でした。

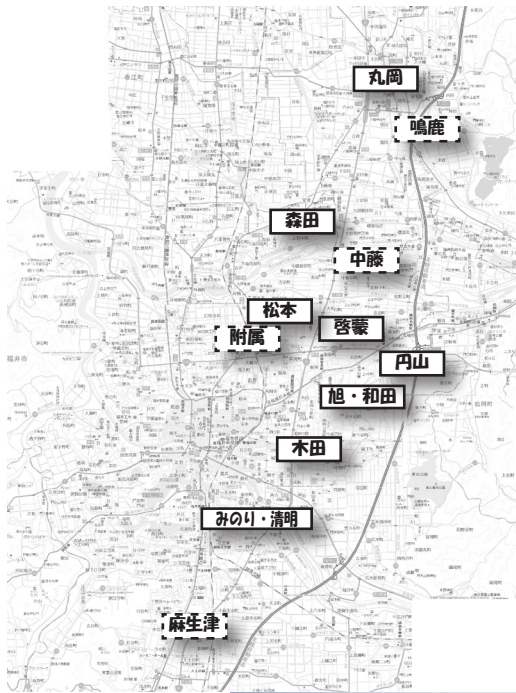
「初演でどののか」「作品としてこなれてから観るのか」企画のタイミングも重要なファクターでした。

下：会場入り口正面に飾った会員手作りの大型看板。いろいろなスキルをもった会員が力を合わせて、例会を盛りあげました。



# 地域を拓く、小学校区ごとにブロック・サークルを

福井子ども劇場が東西に分割されたことによる一番の成果は、より地域に密着した活動を実現することができたことでした。小学校区を単位にサークルが集まり、ブロックを作ってきました。ブロックでの地域活動によって、共に子育てをする仲間作りができました。



**福井親子劇場**  
あそび創造部

**News!**

各ブロックからあそび創造部部長の23名集まりました。初めての集まりということ今回は「木の海」のテーマで、みんなのアイデアを交えた活動を企画しました。ぜひみんなの参加してください。これから毎月対面して子供達と一緒に楽しむことになり、お互いの顔を見ることが出来るようになります。

**木田**  
福井親子劇場あそび創造部  
6月16日(金) 4:00~6:00  
こたけ公民館  
無料  
スキーマンと英雄のあそび場  
6月17日(土) 1:30~3:30  
木田公民館  
参加費 非会員 200円  
会員 100円  
持ち物 飲み物  
問い合わせ先 076-234-1234

**松本**  
スキーマンと英雄のあそび場  
6月17日(土) 10:00~12:00  
松本公民館  
参加費 非会員 200円(非会員) 100円(会員)  
持ち物 飲み物  
問い合わせ先 076-234-1234

**みのり・清明**  
福井親子劇場あそび創造部  
6月18日(日) 4:00~5:00  
みのり公民館  
無料  
問い合わせ先 076-234-1234

**旭・和田・日山・円山**  
福井親子劇場あそび創造部  
6月17日(土) 2:00~3:30  
旭公民館  
参加費 非会員 100円  
持ち物 飲み物  
問い合わせ先 076-234-1234

**丸岡**  
福井親子劇場あそび創造部  
6月24日(土) 10:00~12:00  
丸岡公民館  
参加費 100円  
持ち物 飲み物  
問い合わせ先 076-234-1234

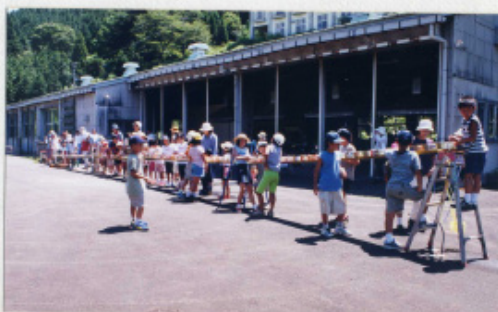
**啓蒙**  
福井親子劇場あそび創造部  
6月17日(土) 2:00~3:30  
啓蒙公民館  
参加費 非会員 150円  
持ち物 飲み物  
問い合わせ先 076-234-1234

**森田**  
スキーマンと英雄のあそび場  
6月17日(土) 2:00~3:30  
森田公民館  
参加費 非会員 100円  
持ち物 飲み物  
問い合わせ先 076-234-1234



地域で共に子育てを楽しむ仲間を作るきっかけにでもおうちで、ブロック発でさまざまな遊びの機会を企画してきました。「自分たちがまず楽しまないと、人に楽しさは伝わらない」という法則に気づいた私たちです。





### 設立総会資料より「ブロックのまとめ」

総会資料には、各ブロックのその時代の様子が生き生きと語られています。会員が増えて、にぎやかになったブロックがある一方で、活発だったブロックが勢いを無くしていくこともあり、地域活動の楽しさと難しさを読み取ることができます。

木田（高木要子さん）

木田は、由緒正しき（？）ブロックで歴史は長く、大先輩がお腹の子と共に福井に子ども劇場の基礎を築いてくださったおかげで、今日までつながってきました。

私は何も知らない福井に住み、三歳になる息子共々不安ばかりの生活から、「はじめの一步」を踏み出せたのが劇場でした。

足羽川原で草野球をし、焼きそばを作って食べたり、もちろん買い出しもワイワイガヤガヤと。キャンプに行き、子どもの寝顔を横目に朝まで語り明かした事。大きなお釜の炊き込みご飯をみんなで食べた時にあげた歓声が、次へのエネルギーになった事などなど。感動やワクワク感を子どもたちと親たちと共有し、成長させてくれました。ブロックだからこそできることから得られるものがいっぱいでした。

一本の木から豊かな森へと確実に広がりを感じ取ることができました。

丸岡（林久子さん）

丸岡ブロックでの思い出といえば、皆で力を合わせて乗り切った地域公演が、何よりも心に残っています。見るだけの会員だった私にとって、最初の時は「なんでこんな手伝いさせられるの??」

お客様意識100%だったのは私一人じゃなく、ほとんどがそうでした。年を経るにつれ、「劇場は手伝うもの」という考えに皆が染まって、気がつけば陽気な内職仲間のような集団。パーベキューやケーキ作り、クッキー作り、どれも楽しい思い出です。

松本（前島美智子さん）

一番心に残るブロックでの活動は、やはり「フェニックスカーニバル」でのおみこし参加です。夏休みが始まってすぐ、ブロックの皆と創作にとりかかり、発砲スチロール箱を積み重ね、廃物を利用した『孫悟空』を完成させました。いざ出陣！見事、大賞を獲得し、おまけに十万円の賞金がついてきたのです。

夏の終わりには、この賞金で県立博物館前広場にてロス・アミーゴスによる「星空コンサート」を行い、素敵な思い出ができました。

円山ブロック（黒田美津子さん）

私が子ども劇場に入ったのは今から十四年前になります。春の拡大の時期に子ども達とカレーを作って食べようという企画でした。

引っ越して来て、まだ円山地区に知り合いが少なかったのが、急に多くの知り合いができました。そのあと、毎月のブロック会や、例会当番、バザーの手作り品の作成などで、手を動かしながらのおしゃべりが楽しく、仲間作りができた事が今でも私の原点のような気がします。本当に劇場さん、ありがとう！

森田（朝倉浩子さん）

ブロックの特色は、やはり地域とのつながりでしょう。夏にバーベキューや水遊び、流しそうめんをしたり、おしゃべりな新年会をしたり、地区の夏まつりに『あそびの広場』をだしてたくさん子ども達と一緒に遊びとクラフトをしましたね。その後の広場での夕食会も楽しみでした。近年は、大勢の親子でホテルを見に行くなど、この地区ならではの親近感とほんわかしたあたたかさのあるブロックです。

麻生津（青木さゑ子さん）

『子どもは子どもの中で育つ。心豊かな子に！』と、十数年前に入会しました。60人を超えたブロック会員も、今はちらほらとか聞いています。

私たち家族は、親も子どもも本当に楽しい時期を過ごしました。毎年自主活動にワクワクしながら参加したものです。みんながいたからできたと感じています。わかりにくいですが、心豊かな芽は育っていると確信しています。麻生津の地にアクションを起こして良かった。そんな気持ちです。

付属（岡田洋子さん）

付属ブロックは、1998年に松本ブロックから独立したブロックです。私たちのブロック会は、いつも斎藤さん宅でのお茶会でした。毎回雑談に終始し、子どもの学校の情報交換や家族の愚痴をしゃべりまくり、お菓子をパクパク、コーヒーをガブガブと、なんともんきなお婆さんの集まりでした。でもいざ行事の前になると、一致団結お婆さんパワー全開のパワフルブロックでした。子どもたちに負けず劣らず親たちも楽しんでいた子ども劇場でした。

啓蒙（山下裕美子さん）

私が啓蒙ブロックに参加させていただいた頃に、東西南の分割の話し合いがあったように思います。月日の流れは速いですね。

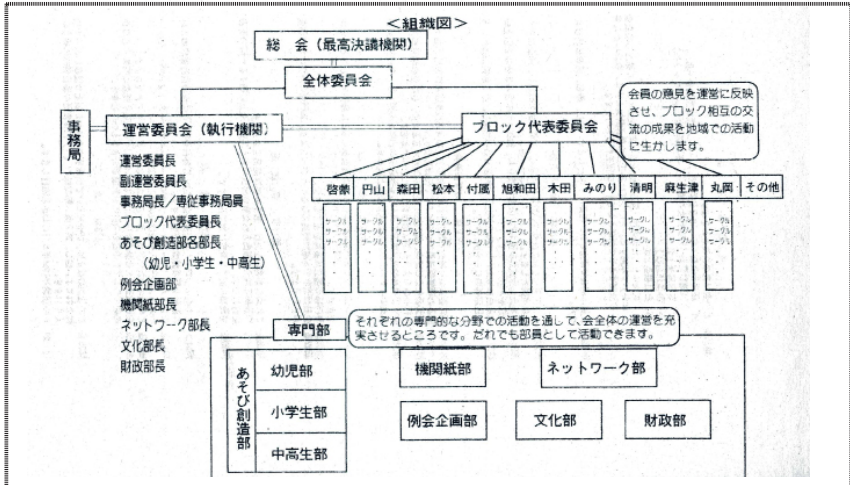
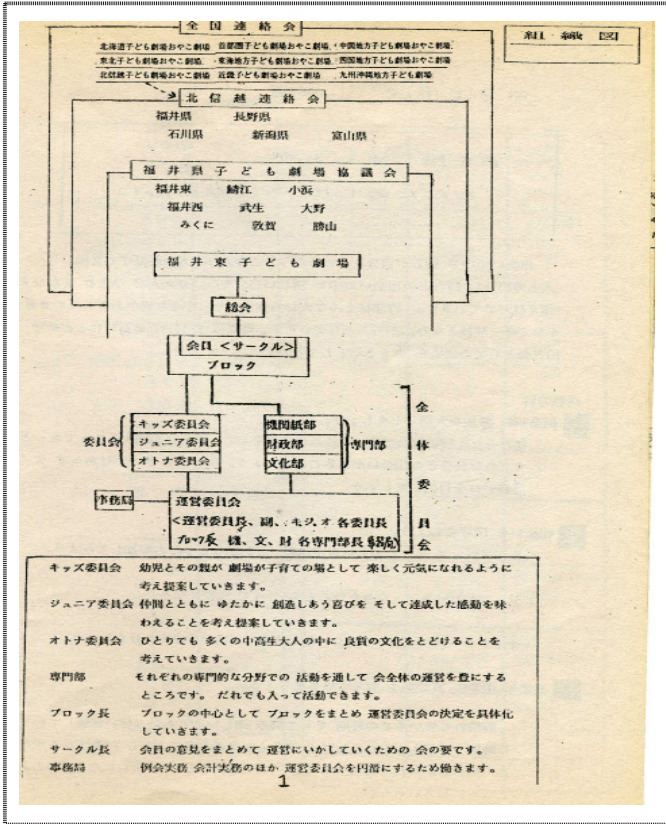
入会の目的は観劇だったのですが、自主活動（登山、キャンプ、バザー、カレーパーティー、公演のお手伝いなど）は一家族では経験できないことも多く、ブロックの中の人たちとの素敵な出会いは最近のことのように思い出されます。たくさん楽しい時間に感謝しています。

和田（今村充美さん）

入会してもうすぐ十年。その間に会員も増え、今年の中Gも三名誕生。入会したけど一体何をどうすればいいの？自分達のしたい事をなんでもすればいいんだよ、の返事。思いつくまま次々と遊んできたという感じです。流しそうめん、ドロドロ絵の具、ストリート探検にドラマスクールまでダイナミックな遊びもいっぱい。地域公園や祭りでも子どもと一緒に準備から楽しみ、みんな思い出いっぱい友達いっぱいの子育てができました。ありがとう。



福井東子ども劇場設立当時の組織図（左）と、東西合併を控えた頃の組織図（下）を基本として、「ひとりひとりの会員が主役」となるための組織作りは、試行錯誤の連続でした。









# ドリーム オブ チャイルド

Dream of a Child

来日公演

～0歳からの人形劇～

そこは、お母さんのおなかの中を思い出す、不思議であたかく幻想的な空間。  
 昏れた大らかな星を取り戻すための旅に出たチャイルドは、  
 数々の出会いと冒険をへて、勇者に成長する。  
 そんな物語を親子で観る間に、温かい気持ちや夢を伝え、  
 それぞれの星がみずみずしく輝く。

創団シアターライツ

イギリス

①11:00～ ②18:30～ 2回公演

会場 県生活学習館ユアタイムいづみ多目的ホール

チケット 一般席 2500円  
 親子ペア席 3500円  
 子ども席 1500円  
(12歳未満は保護者同伴)

(2月1日チケット発売開始)

主催 神奈川県福祉推進センター  
〒210-0801 藤井野宮2-20-22 TEL:0778-5348 FAX:531-5454

共催 福井親子とら劇団  
〒910-0801 福井市吉原町2-2401 TEL:FAK 0778-54-4896

福井親子とら劇場  
〒910-0801 福井市吉原町2-20-22 TEL:FAK 0778-22-3516



## 「文化活動は人づくり・町づくり・地域づくり」

福井県地域公演フェスティバル 2000 実施マニュアルより

小さいうちから競争の中で過ごし、「いじめ」や「虐待」などで追い詰められていく子どもたち。今、社会的にも子どもたちの「心」が問題になっています。子どもたちは、大人の都合や経済効果に合わせて育っていくものではありません。つまづきや失敗も含めて様々な体験を積み重ねて成長していきます。何よりも人間関係の基本となる、相手の立場や痛みを理解する社会的体験のなさが心の未発達をきたし、社会問題化していきます。

子どもたちが、感性豊かに成長するうえで、多くの友達との遊び体験や、心ゆさぶられる芸術体験は不可欠な要素であり、こうした体験の中から自らの考えを表現したり、他人の気持ちを理解する力を育てることができます。

平成11年度、文部省が「全国子どもプラン（緊急3カ年戦略）」を策定し、その目的に「地域で子どもを育てる環境の整備と、親と子どもたちの活動を振興する体制の整備」をあげています。その重点課題のひとつに、子どもたちの文化活動や鑑賞の機会を充実する～「地域子ども文化プラン」の推進～があります。この事業にあたっては、官民の協力を得て、子どもたちの活動の機会と場を拡大することが求められており、「福井県地域公演フェスティバル 2000」の企画もこの課題の趣旨によるものです。

過去4回の「福井県地域公演フェスティバル」では、県内すべての市町村で舞台劇・人形劇・音楽コンサート・芸能・海外作品などが多彩に取り組みられ、のべ2万人の子どもたちに優れた生の舞台芸術が届けられています。

今回の企画は、地域の三世代交流を目指した芸能や、子どもたちの体験ワークショップを組み込んだ音楽作品など、地域の会場条件にあった小規模ながら質の高い作品群をノミネートしました。毎回、開催市町村の後援や助成をいただいたり、その地域に住む人たちの実行委員会が準備が進んだり、温かい感動の輪を広げています。

感受性が最も鋭い「子ども時代」における芸術との出会いや、文化活動への参加が、その後の人間形成に多大な影響を与えることを考えれば、子どもたちにこそ豊かな文化環境をと願わずにいられません。





思春期の育ちを支える 仲間の信頼スペース

# 中G・高G

中学生グループ、高校生グループ



子どもキャンプ	
1990.8.3～5	夜叉ヶ池キャンプ場
1991.8.1～ 12?	山中町真砂教育キャンプ場
1992.8.7～9	夜叉ヶ池キャンプ場
1993.8.27～ 29	上小池キャンプ場
1994.8.6～8	上小池キャンプ場
1995.8.5～7	夜叉ヶ池キャンプ場 (伝説の鶏3羽同行!)
1996.8	勝原キャンプ場
1997.8.1～3	夜叉ヶ池キャンプ場
1998.8	一光小学校跡地
1999.8.6～8	勝原キャンプ場
2000.8.4～6	夜叉ヶ池キャンプ場
2001.8.5～7	麻那姫湖キャンプ場
2002.8.10～ 12	夜叉ヶ池キャンプ場
2003年 福井西子ども劇場に合流	

## 子ども劇場は自然体で安心できる場所

(齊藤 舞 20才)

私は正直、社交的では全くない。むしろ、自分で言うのもなんだけれど内気な恥ずかしがり屋さんだ。手をあげて発表するなんてもってのほか、サハラ砂漠横断級の大挑戦だった。この性格は今でもたいして変わらない。「子ども劇場のおかげで私は明るく陽気な子になることができました！」みたいな美談はどうがんばっても書けそうにない。人見知りはその簡単に直らないよ。でも、そんな私だから子ども劇場はしっくりきたのかもしれない。無理をしなくても、仲良くしなくちゃみたい心配をしなくても、自然にそこにいることができた。同世代の子たちと集まることが多い学校やクラブや習い事と違い、様々な年齢・性別・風貌・生き様をもつ人々が集まるという環境のせいなのだろうか。刺激的というよりは安心できた。

この経験が、社会生活において果たして私のためになったのかまったくわからない。実感できるものはなにもない。ただ、毎年夏になると「あ～、キャンプ行きてえ～」って必ず思う。今度行こっかな。



左：福井市内の事務所を夜9時に出発して、三国まで夜通し歩く「ナイトハイク」毎年の恒例行事でした。



上：バザーに「子どもの店」を出店してくれた中学生たち。



下：脚本、演出、出演すべてを自分たちで手掛けた寸劇。等身大の自分たちの思いを演じました。

座談会 さようなら、そして、ありがとう

福井東子ども劇場

福井東子ども劇場がなくなる。

福井東西に分かれた子ども劇場を、ひとつの活動体として統合することを念願してきた私たちにとって、この日が来るのは待ち望んできたことだった。

13年の歴史をそれぞれの時代に支えたりリーダーがどのように振り返るのか。夜更けに集まった女たちの尽きぬ思い出話を再録します。(2004年某月 開発にて)

座談会メンバー

島田奈を美(1991～1994運営委員長)

町原郷子(1991～1998事務局長)

斉藤富美代(1994～1997運営委員長)

前島美智子(1992～副運営委員長)

安田弥生(1997～1999運営委員長)

清水雅美(2001～2003運営委員長)

司会：藤井洋子(2001～事務局長)

記録：岡田由美、平野智子



子ども劇場では、

## 出る杭は抜かれる

司会 あっという間の13年だったように思うのだけど、皆さんにとって子ども劇場ってどんなところでしたか？

前島 楽しかったよ。

斉藤 一言しゃべるたびに一段ずつ役職が上がっていくんだよね。(笑)

町原 「出る杭は打たれる」じゃなくて子ども劇場では「出る杭は抜かれる」(爆笑)

斉藤 でも、面白いからつい口出しちゃう。

島田 性格もあるね、これは。

前島 こういうと無責任かもしれないけど、会社とかと違って「お金がなかったら、会費集めて何とかやろう」って出来たじゃない。その気楽さが良かったんだと思う。

藤井 でもさ、大胆なお金の使い方するところだなって怖かったよ、私。だって、来年の会員が何人になるかわかんないのに年間1千万超える予算を立てるんだもん。助成金も補助金も1銭もないのに。最近やっと私たちにも助成してくれるところが出てきて何とか会費以外の収入の道がみえてきたけどね。

斉藤 私の場合、福井に知り合いがいなかったのが大きかったかも。結婚してすぐ年子が生まれちゃって、買い物行ってもスーパーのレジのおばちゃんと話ができるわけがなし、だから生協に入るのも楽しかったし、子ども劇場も「誘ってくれてありがとう」だよ。

県外出身だから、ここで活動する必然性があったとは思うよ。

島田 県外組は多かったねえ。

町原 運営に関わる人はね。でも、会員さんは圧倒的に県内の人が多かった。

前島 福井の子ども文化は転勤族によつて作られてた？

藤井 でもこの中では斉藤さんと岡田さんと私くらいだよ県外出身は。

斉藤 あ、そうか。

## 持ちつ持たれつ

### 助け合いの子育て支援

島田 前島さんが「楽しかった」つて言つたけど、そりゃ貴女は楽しかったでしょうよ。だつて、そろそろ何かしてもらおうかなつて思つたら「下の子が生まれるから」つてそれが何人産んだんだっけ？

前島 4人。

島田 例会のたびにお宅の赤ちゃん託児して、またよく泣くんだこの子が。

前島 特に3番目ね。大変だったわ、あの子。(笑)

斉藤 18才になって、あんなに素敵な子になるとは正直思わなかつたね。(爆笑)

前島 私を誘つてくれた人が言つたの。「いつかお返しが出来るときが来たら、返してくればいい。私にじゃなくて次の誰かにね」つて。

斉藤 返したよねえ、いっぱい。

町原 そうそう。

斉藤 私も一年くらい「お荷物会員」だった。会費は届けないだし、例会のたびに電話で「忘れないでね、明日は例会よ。」って教えてもらうんだし。で、これじゃいかんな、と。「お荷物」の間は子ども劇場の楽しさってわからないのよね、実は。

前島 だから、お荷物でも劇場でも子ども連れてても、ここなら人のために何かができるっていうところが良かったんだと思う。

島田 そこが劇場が続いてきた理由だよ。甘えた分だけ、次は自分が動くぞって。

斉藤 動かない人には動かない楽しみ方も〇×だけど、動くのも楽しい。

島田 私だって最初は幽霊会員やったんやよ。

## 例会の力は大きい

全員 え〜〜っ!?

島田 そうだって。最初は地域公演に誘われたの。「小鳩幼稚園で人形劇やるからチケット買って」って言われて「いいよ」って。子どもだけ送り込んで、終わるころに迎えに行った。子どもが何を観てきたんだか全然知らないでね。それで平気な親だったのよ。で、迎えに行ったら子どもがえらい喜んでるのよ。次もまた何かやるんならチケット買うよって言うってたら、辻久子のヴァイオリン・コンサートがあるって言うじゃない。主人がクラシック好きなもんで、「これだけ観るのに入会したら」って入ったのよ。本当は高学年例会だ

からうちの長男はまだ資格がなかったはずなんだけど、どうしてくれたのかなあ、何しろそれが最初。

斉藤 わかる。私も子どもの実年齢よりも少し上の子向けの例会が楽しかった。おチビさんたちの例会を続けて観てる間に、高学年の良い例会に出会ったりすると、「やっぱりこれだよ〜」と思つたよね。だから、例会の力つて大きかったんだと思う。

島田 当時は子ども劇場以外で子ども向きの良い芝居とか呼べるところはなかったよね。

斉藤 そこだよね、問題は。

司会 今は子ども劇場に入らなくても、良い舞台を観ることができる。劇団四季も来るんだし。何も組織に入らなくてもいいやつて思う人が増えてるから、会員が減っていくのかな。町原さんは福井東の設立から7年間、事務局として関わってきたから会の全体が見渡せたよね。

町原 う〜ん、それはどうか。会員さんの生の声を聞くということでは、ブロック長さん達の方がずっと良く見えていたと思うよ。今、振り返つて思い出すのは、例会の時に楽しそうに会場に来てくれる子どもたちの顔かな。お母さんたちも忙しい思いして家を出てくるんだろうに、芝居が終わつたら本当に良い表情で親子で帰つていくのよね。事務局としては、例会を良いものにするために緊張して迎える日なんだけど、アンケートを書いてくれたのを読んだり、子どもたちがうれしそうにしているのを見たりするのが楽しかった。藤井 劇団は、東京、名古屋、京都から大きなトラックで舞台装置を積んではる福井まで来てくれて、半日かけて芝居の仕込をして、夜に公演したらずぐにバラしちゃうんだよね。私は、「バラシ」が好き。祭りのあとつて感じがいいのかなあ。主催者ならではの

楽しみだと思う。舞台本番がもちろん一番大切なんだけど、案外その前後の作り手との交流が、異文化体験っていうのかな、「ああ、こんな生き方もあるんだ」っていう驚きがあって良いんだと思う。役者さんたちつてみんなそれぞれにすごく魅力的な個性の持ち主だから、舞台裏で彼らに出会うことができる事務局つてラッキーな仕事かもしれない。得がたい体験をさせてもらつてると思う。

## 「達成感」の大切さ

島田 お金だけ払つて「良いとこ取り」したように思っている人もいるかもしれないけど、何もしないでただ例会を見るだけの人は、もしかしたら一番高いお金の払い方をしているのかもしれない。ゼロから作りあげる過程を経験すると、出来上がったものだけ参加するのは体験の質が全然ちがうもん。私たちが劇場でおまつりとかをするときに、実行委員とか運営委員とかは当日を迎えるその日までが楽しいんだわ。当日あそびにだけ来る人は、そこでその日一日楽しむしかないけど、準備をした人は、これまで思い描いてイメージしてきた絵空事が現実のものになるのを確認することができるのよ。「やつた〜」って思うよね。この達成感を知らないで、例会を見るだけの会員でいるのは惜しいと思うよ。斉藤 「見るだけ会員」さんをなくすためにいろんな手は打ったねえ。「挨拶たのむ」とか、「受付手伝つて」とか。

島田 それと「子ども」ね。子どもにもなるたけたくさんの達成感を味わうことができるようにしてあげようと思つてきたかな。小学校高学年から中学生くらいの時に挫折を味

わって、それを乗り越える体験があつて初めて一人前に社会に出る基礎ができるんだって。小さいときに「やった〜」って何度か思つた経験のある子は、挫折しても過去の成功体験があるから自然とプラス指向になるって。でも、今の親は子どもから達成感を味わうことを取り上げているんじゃないか？子どもにやらせると時間と手間がかかるし、親がやった方が簡単って。で、□でしょ。何だつてキーボード叩けばできちゃう。達成感なんてないじゃない。

斉藤 そういえば、学校の廊下にセンサー付きの照明がついてPTAが喜んでたけど、それって違うと思うんだわ。必要があれば電気をつけて、人がいなくなったら消すつてことを教えるのが学校なんじゃないかって。だから、何でも便利になることが子どもから力を奪つてゐるつてことはあるよ。

司会 清水さんも「達成感」を親も子も味わつてほしいという願いをもつて、地域で会員さんと活動してるよね。そのパワーの源つて何だと思ふ？

## 時代遅れのキャンプ

清水 私は塾の教師として子どもたちに接しているから、「今の子どもたちがおかしい」つてまざまざと感じるんだわ。何とかしなくちゃつて思う。うちの主人が言うんだけど、「今どき薪を燃やしてキャンプしてるのは子ども劇場ぐらいのもんやぞ」つて。液体燃料も固形燃料も便利なものがいっぱいあるのに何で好き好んで古臭いことしてるのかわからんつて言うの。今のお母さんたちも組織に入つて活動することを嫌うけど、だけど敢えて「今

どき何で？」っていうことを親も子も経験することの大切さは伝えていきたいと思うのよ。

島田 劇場が時代に逆らってサバイバルキャンプするのはちゃんと訳があるのよ。薪があればご飯は炊ける。シート一枚あれば雨露しのげるって体験をさせておかなかちゃ。

斉藤 昔、青年の吉村くんがキャンプで鶏つぶしたの言いだしたことがあってね。

前島 あったね、そういえば。

斉藤 私、ダンボールに鶏3羽入れてしばらく家で飼ったんだよ。で、キャンプに連れていったら、子どもたち1羽つぶすのがやつとであとの2羽は山に放してきた。(笑)でも、あのキャンプに参加した子たちは強烈な体験をしたと思うよ。

藤井 その経験をしたのは当時の会員のうちのほんの一握りでしょ。700〜800人の会員のうちの30人くらいかな。それでも良いのかな、会として。

島田 神戸の震災の時に、お年寄りが戦中から戦後を生き延びてきた体験を伝えることでみんなが助かったって。キャンプも、実際に体験したのは一握りかもしれないけどそれを伝えることでたくさんの人に影響を与えることはできるよ。だとえ人の後ろに隠れて震えながら鶏つぶすのを見てた子だって、もし自分がそこにあるものを何でも食べて生きていかなきゃならないとかいう局面に立たされた時に、「あの時、吉村くんがたしかこうやってた」っていう記憶があったら、何とかしてやってみようと思うはずよ。その一人の体験がみんなを救うことだってあるかもしれないよね。一年にわずか30人かもしれないけど、それを毎年続けていくことが大切なんだと思うよ。

## NPOが台頭する

### 時代は来るのか？

斉藤 自分の家と家族だけが大事な人っているんだな〜って思うときがあつて、なんか寂しい。

島田 自分の心が満ち足りている人は、他人のことにも心をかけることができるけど、自分はこのにいるってことを確信できない人間は大人であろうと子どもであろうと自分の場所を死守することに必死になるのよ。そういう人は、他人のことに手を出したり足出したりはしないの。出来ないの。

斉藤 だって、それじゃ悲しいじゃない。

島田 自分を愛して自分の位置を確かめられていれば、自分のことばかり言わないはずだよ。

斉藤 自分だけ愛してるんだと思うよ。

島田 違う。自分の評価を他人に任せてるから、自信が持てないのよ。いるよ、そんな人いっぱい。

司会 たが社会を変えるって言われてるんだけど、社会に目を向けて社会貢献活動をしよ〜という人が増えてくるのだろうか。NPOはこの地域に根付くのかな。

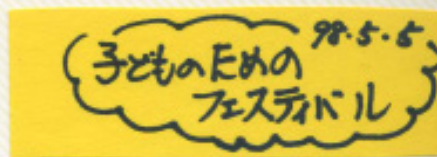
斉藤 難しいかもしれない。だけど、子ども劇場がやってきたことを言葉にしてちゃんと伝えることをするべきだと思うよ。そうして人の気持ちを覚えていくことをしないと、利



己主義に走る人たちを止めることはできないんじゃないかな。

島田 まあ、悲観的にならないで。自分の損得抜きにやってきた仲間だから、一生の友達になれるんだよ。でもって、これで福井東は終わるんなら、今度はシニア会でも作ろうかのう。

全員 シニアはやめて〜〜!! (爆笑)











子どものための  
フェスティバル











子どもたちの  
フェスティバル





花本ブロック 2000 年  
地域公演  
うみへびのオン  
-とんぼ- -La136-







秋祭り  
ネバーゲーム





=夏休み  
貯金箱づくり=







1999  
山崎ジュニアコース  
生まマアお水



2000.3.12  
山崎ジュニア  
生まマアお水





【資料】

福井東子ども劇場規約

第1章 総則

第1条 この会は文化を愛好する子どもと大人の自主的な会であり、「福井東子ども劇場」と呼びます。

第2条 この会は事務局を（福井市西開発1-2401 TEL&FAX0776-54-4896）におきます。

第2章 目的

第3条 この会は子どもと大人もために優れた芸術を鑑賞し、文化の創造発達に努力します。それを通して、友情と自主性・創造性を育み、地域全体の健全な成長をはかります。

第3章 活動

第4条 この会の目的を達成するために次の活動を行います。

- イ. 演劇・音楽などの鑑賞、創造のために定期または臨時に全会員を対象にした例会を開きます。
- ロ. 会員の自主的な活動を積極的にすすめます。
- ハ. 子どもの文化状況を日常的に追及し、研究活動を系統化します。
- ニ. 児童文化諸団体と協力し、すぐれた児童文化の創造・発展につとめます。
- ホ. 機関紙、ニュース等を発行します。
- ヘ. その他、会の目的にそった事業。

第4章 会員

第5条 子どもと大人は所定の手続きをして、だれでも自由にこの会の会員になることができます。ただし12歳未満の子どもは親あるいはそれに代わる人と一緒に入会します。

第6条 会員は一定の会費を払い、会の活動に参加します。

第5章 組織運営

第7条 会員は原則として地域・職場などを単位に2家族あるいは3名以上でサークルをつくります。

第8条 各サークルは1名のサークル代表者を選びます。

第9条 この会の活動・連絡などは、原則としてサークルを単位に行います。

第10条 各サークルは構成員の民主的な話し合いで、この会の目的にそった自主活動を行うことができます。

第11条 会の運営を円滑に行うために、サークルをブロック別にまとめます。

第6章 総会

第12条 総会は各サークルから選出された代議員によって構成されこの会の最高決議機関とします。

第13条 代議員はサークルから1名とし、30名をこえるごとに1名ずつふやします。

第14条 総会の成立は構成員の過半数以上の出席を必要とし、総会の決議は出席者の3分の2以上の賛成を必要とします。

第15条 次の事項の決定には総会での議決を必要とします。

- イ. 例会の年間計画
- ロ. 予算・決算の承認
- ハ. 役員を選出
- ニ. 規約の改廃（但しイの変更の際には運営委員会）

第16条 総会は年1回、年度末から2ヶ月以内に運営委員長が招集します。但し、運営委員会が必要と認めた場合は、運営委員長は1ヶ月以内に臨時総会を招集しなければなりません。

## 第7章 役員

第17条 この会は次の役員をおきます。

イ. 運営委員長1名、副運営委員長若干名、運営委員若干名

ロ. 事務局長1名

ハ. 委員15名以上

ニ. 会計監査2名

第18条 役員は総会で選出され、任期は1年とします。但し、兼任、再選は妨げません。

## 第8章 全体委員会

第19条 総会で選出された役員（会計監査は除く）で委員会を構成し、総会に次ぐ決定機関とします。

第20条 委員会は構成員の過半数の出席で成立し、議決は出席者の3分の2以上の賛成を必要とします。

第21条 委員会は原則として年2回以上運営委員長が招集し、第6章第15条にいう項目以外のことを決めます。

## 第9章 運営委員会

第22条 運営委員会は総会で選出された運営委員、事務局長及び専従事務局長で構成され運営委員長が必要に応じて招集します。

第23条 運営委員会は総会、委員会の決定を執行すると共に、この会の活動が円滑に行われるよう必要な措置をとることができます。

第24条 運営委員会の成立は構成員の過半数以上の出席を必要とし、その決定は構成員の3分の2以上の賛成を必要とします。

## 第10章 専門部

第25条 この会の活動を円滑に行うため、運営委員のもとに専門部を設けることができます。

第26条 専門部の部長、必要があれば副部長は運営委員とします。

第27条 会員はだれでも専門部員になることができます。専門部の運営は専門部員があたります。

## 第11章 事務局

第28条 この会に事務局を設け、若干の事務局員をおきます。

第29条 事務局は総会で選出された事務局長のもとで会の運営に関する一切の事務を行います。

第30条 事務局に関する規定は別に定めます。

## 第12章 財政

第31条 この会の会費・入会金及び会に対する寄付金は、この会の目的達成のための活動を行う経費に充当します。

第32条 会費は月額（キッズコース1200円・ジュニアコース1200円・アドバンス（A・D）コース1000円）入会金は200円とします。

第33条 この会の会計年度は4月1日から翌年の3月31日までとなります。

第34条 会計監査はこの会の決算について監査し、その結果を総会に報告するほか必要に応じてこの会の会計につき調査できるものとします。

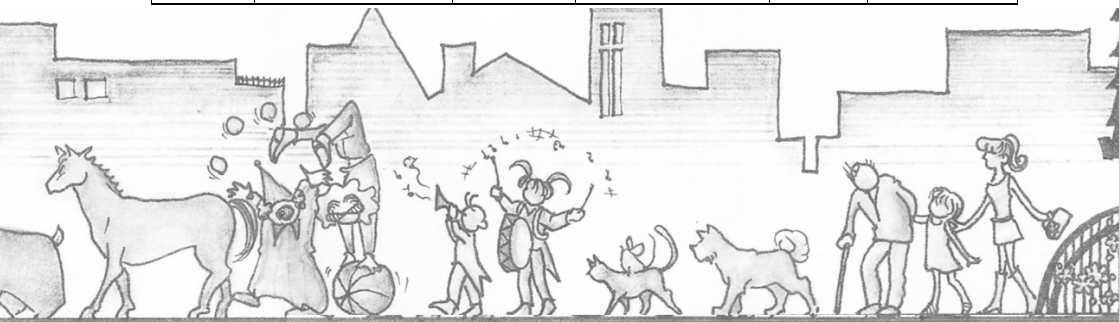
## 第13章 改正

第35条 この規約の改正は、総会において出席者の3分の2以上の賛成によって決定されます。但し、第2条第32条の（ ）内は変更の際自動的に書きかえられます。

付則 この規約は1994年5月17日から施行します。

## 福井東子ども劇場（1991～2004） 全鑑賞例会リスト

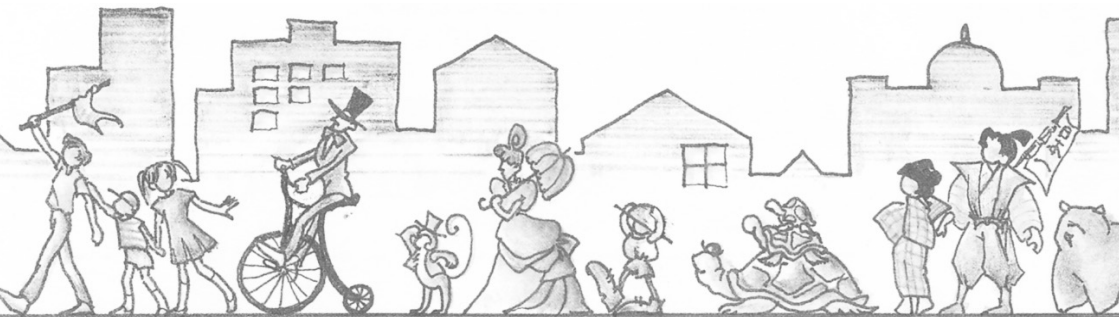
例会no.	作品名	例会種別	創造団体名	公演日	会場
第 98 回例会	大どろぼうホツェンプロッツ	(低)	人形劇団ひとみ座	1991/6/7-8	福井市文化会館
第 99 回例会	ジンとササの伝説	(高)	青年劇場	1991/7/22	福井市文化会館
第 100 回例会	車のいろは空のいろ	(低)	劇団えるむ	1991/9/28	セーレン体育館
第 101 回例会	太郎冠者と遊ぼう	(高)	野村耕介狂言の会	1991/10/9	能楽堂
第 102 回例会	夢見のちゃら平	(低)	劇団うりんこ	1991/12/4	福井市文化会館
第 103 回例会	インスパイヤー	(高)	ミュージカン	1992/1/12	福井市文化会館
第 104 回例会	ソル・アモールコンサート	(低)	文化センターボックス	1992/3/8	福井市文化会館
第 105 回例会	地べたっこさまや〜い	(高)	劇団えるむ	1992/3/13	福井県社会福祉センター
第 106 回例会	小さなスプーンおばさん	(低)	劇団エンゼル	1992/6/21	福井県民会館
第 107 回例会	UBU-BOMI	(高)	劇団ひまわり	1992/7/17	福井県民会館
第 108 回例会	花さき山	(低)	劇団角笛	1992/9/8	福井市文化会館
第 109 回例会	マリンパとパーカッション	(高)	クォーレ ムジカ	1992/10/8	福井テレビホール
第 110 回例会	天満のとらやん	(低)	劇団コーロ	1992/12/3	福井県民会館
第 111 回例会	そうべえごらくへゆく	(高)	劇団京芸	1992/12/18	福井市文化会館
第 112 回例会	ガランビーポロン音楽会	(低)	ロバの音楽座	1993/3/14	福井県社会福祉センター
特別例会	特別例会「牛若丸」	会員(2500円) 非会員 (3000円)	前進座	1993/3/25	福井市文化会館
第 113 回例会	雪をんな	(高)	劇団むすび座	1993/4/8	商工会館
第 114 回例会	星モグラサンジの伝説	(低)	人形劇団京芸	1993/6/13	福井県民会館
第 115 回例会	銀河鉄道の夜	(高)	東京演劇アンサンブル	1993/6/20	福井市文化会館
第 116 回例会	西遊記	(高)	劇団むすび座	1993/9/17	福井市文化会館
第 117 回例会	リユクサクク劇場	(低)	人形劇団京芸	1993/10/2	福井県民会館
第 118 回例会	カンジヤママイム	(低)	カンジヤママイム	1993/12/4	福井県民会館
第 119 回例会	クエスチョン	(高)	劇団風の子九州	1993/12/15	福井県社会福祉センター
第 120 回例会	石になったかりうど	(低)	東京演劇アンサンブル	1994/3/16	福井市文化会館
第 121 回例会	桃太郎くんがゆく	(高)	劇団鳥獣戯画	1994/3/28	福井市文化会館
第 122 回例会	ころはち大明神	(キッズ)	人形劇団ポポロ	1994/6/18	福井県民会館
第 123 回例会	オズの魔法使い	(ジュニア)	結城座	1994/6/23	福井県民会館
第 124 回例会	四谷怪談	(オトナ)	奮い企画	1994/7/13	西別院門徒会館
第 125 回例会	モダンアフリカンミュージック	(ジュニア)	ピタシカオフィス	1994/9/10	福井県民会館
第 126 回例会	おだんごころころ	(キッズ)	劇団銀河鉄道	1994/9/16	福井県民会館
第 127 回例会	リュートとチェンバロのデュオ	(オトナ)	ロバの音楽座	1994/10/7	神明教会
第 128 回例会	パネルシアターコンサート	(キッズ)	ともしび音楽企画	1994/11/19-20	フェニックスプラザ
第 129 回例会	ルドルフとイッパイアッテナ	(ジュニア)	ミュージカル劇団フォーリーズ	1994/12/11	福井市文化会館
第 130 回例会	正しい殺し方教えます	(オトナ)	テアトル・エコー	1995/2/20	福井市文化会館



※前身である「福井子ども劇場」例会から数えているため、第98回から始まっています。

※「オトナコース」例会も連番扱いにしています。

例会no.	作品名	例会種別	創造団体名	公演日	会場
第 131 回例会	ザ・たがやしまショー	(キッズ)	人形劇団とんと	1995/2/26	啓蒙公民館
第 132 回例会	バベット・ボンボン・ショー	(ジュニア)	人形劇団京芸	1995/3/4	福井県民会館
第 133 回例会	新羅生門	(オトナ)	劇団扉座	1995/4/17	福井市文化会館
第 134 回例会	まさかのかさ	(キッズ)	人形劇団クラルテ	1995/4/22-23	フェニックスプラザ
第 135 回例会	魚や宗五郎	(オトナ)	前進座	1995/6/14	福井市文化会館
第 136 回例会	バジャママンコンサート	(キッズ)	親子音楽企画	1995/6/24	フェニックスプラザ
第 137 回例会	セロ弾きのゴーシュ	(ジュニア)	オペラシアターごんやく座	1995/6/26	福井市文化会館
第 138 回例会	幸福	(オトナ)	劇団朋友	1995/8/28	福井市文化会館
第 139 回例会	トラックとらすけ	(キッズ)	エック・ワールド	1995/9/14-15	福井県民会館
第 140 回例会	ズッコケ三人組	(ジュニア)	人形劇団ひとみ座	1995/9/28-29	ユーアイふくい
第 141 回例会	しのだづま考	(オトナ)	京楽座	1995/11/16-17	フェニックスプラザ
第 142 回例会	ゆめみちゃりpart2	(ジュニア)	わらひ座	1995/12/2	福井県社会福祉センター
第 143 回例会	うしろの正面あんだ	(キッズ)	劇団風の子北海道	1996/1/26-27	フェニックスプラザ
第 144 回例会	フタをあげれば夏のかぜ	(オトナ)	劇団うりんこ	1996/3/4-5	福井市文化会館
第 145 回例会	あやとじろきちおおかみ	(キッズ)	人形劇団ブーク	1996/3/20	ユーアイふくい
第 146 回例会	ハバあべこべばく	(ジュニア)	劇団朋友	1996/3/16	福井県民会館
第 147 回例会	オバケちゃん	(キッズ)	人形劇団ブーク	1996/6/8	福井県民会館
第 148 回例会	ニ・ノ・チ・カ	(オトナ)	劇団NLT	1996/6/18	福井市文化会館
第 149 回例会	中岡はどござよ	(ジュニア)	劇団たんぼぼ	1996/6/23	福井県民会館
第 150 回例会	幻燈辻馬車	(オトナ)	東京演劇アンサンブル	1996/9/7	福井市文化会館
第 151 回例会	ドラマンガーズ	(キッズ)	遊育研究所素劇舎	1996/9/16	ユーアイふくい
第 152 回例会	ジェニー～少年の聴いたラブソング～	(ジュニア)	人形劇団ブーク	1996/9/23-24	フェニックスプラザ
第 153 回例会	わたしはシャーリー・ブレント	(オトナ)	ケー・ダッシュステージ	1996/11/5	福井市文化会館
第 154 回例会	でこぼこよろりん	(ジュニア)	劇団青芸	1996/11/23	福井県民会館
第 155 回例会	うたのゆうえんち	(キッズ)	ともしび音楽企画	1996/12/1	フェニックスプラザ
第 156 回例会	たかはしべんコンサート	(ジュニア)	たかはしべん音楽事務所	1997/2/20	フェニックスプラザ
第 157 回例会	ザ・ニュースペーパー	(オトナ)	ドゥー企画	1997/3/3	福井市文化会館
第 158 回例会	とびだせ乱太郎	(ジュニア)	コースケ事務所	1997/3/12	市民福祉会館
第 159 回例会	風の子パザール	(キッズ)	劇団風の子	1997/3/28-29	福井県民会館
第 160 回例会	パノラマ☆アワー	(ジュニア)	劇団パノラマ☆アワー	1997/6/6	福井県民会館
第 161 回例会	エルマーと16びきのりゅう	(キッズ)	人形劇団ブーク	1997/6/28	福井市文化会館
第 162 回例会	カッコウの巣の上を	(オトナ)	加藤健一事務所	1997/7/9	福井市文化会館

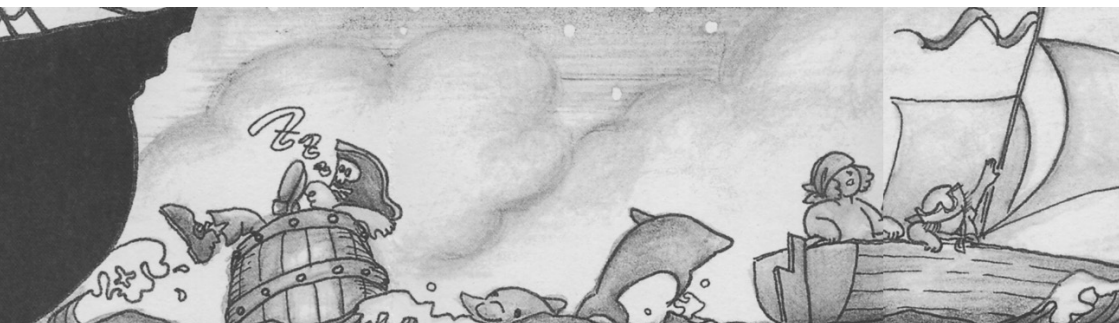


例会no.	作品名	例会種別	創造団体名	公演日	会場
第 163 回例会	ジグの空想音楽会	(ジュニア)	ロバの音楽座	1997/9/9	フェニックスプラザ
第 164 回例会	キマグレサーカス	(キッズ)	どん亀座	1997/9/26	福井県社会福祉センター
第 165 回例会	間違いの喜劇	(オトナ)	シェイクスピア・シアター	1997/9/30	福井市文化会館
第 166 回例会	MOTHER	(オトナ)	劇団青年座	1997/11/27	福井市文化会館
第 167 回例会	ベンガル虎の少年は・・・	(ジュニア)	劇団コーロ	1997/12/1	福井市文化会館
第 168 回例会	小さい劇場	(キッズ)	劇団風の子東京	1998/1/24	福井市文化会館
第 169 回例会	ゲゲゲの鬼太郎	(ジュニア)	人形劇団ひとみ座	1998/3/6	福井市文化会館
第 170 回例会	魔法の森の物語	(キッズ)	ガイ氏即興人形劇場	1998/3/15-16	リライム、国際交流会館
第 171 回例会	十二人の怒れる男たち	(オトナ)	俳優座劇場プロデュース	1998/4/10	福井市文化会館
第 172 回例会	スノーブレーク	(ジュニア)	国際演劇研究所	1998/6/13	ユーアイふくい
第 173 回例会	ザ・クラシック笑	(オトナ)	亀さん企画	1998/6/21	ハーモニーホール
第 174 回例会	ごきげんなすてこ	(キッズ)	俳優館	1998/6/25	福井市文化会館
第 175 回例会	14ひきのひっこしだ	(キッズ)	人形劇団ボボロ	1998/9/19	国際交流会館
第 176 回例会	唐来参和	(オトナ)	しゃぼん玉座	1998/9/29-30	フェニックスプラザ
第 177 回例会	ポケット寄席	(ジュニア)	日本伝統芸能を守る会	1998/10/4	フェニックスプラザ
第 178 回例会	酔いざめお園	(オトナ)	舞台創造研究所	1998/11/18	福井市文化会館
第 179 回例会	石の馬	(ジュニア)	人形劇団むすび座	1998/12/1	福井市文化会館
第 180 回例会	お星さまの色えんぴつ	(キッズ)	劇団かかし座	1998/12/12	国際交流会館
第 181 回例会	かいじゅうのいる公園	(ジュニア)	劇団風の子	1999/2/27	国際交流会館
第 182 回例会	ルルル ルラルさん	(キッズ)	劇団うりんこ	1999/3/7	国際交流会館
第 183 回例会	おれたちは天使じゃない	(オトナ)	イツ・フォーリーズ	1999/3/14	福井市文化会館
第 184 回例会	ミスター・シャドウPart3	(ジュニア)	劇団かかし座	1999/6/19	福井県民会館
第 185 回例会	ママったらわたしのなまえをしらないの	(キッズ)	オールスタッフ・プロデュース	1999/6/25	ユーアイふくい
第 186 回例会	ピンクのドラゴン	(キッズ)	人形劇団ブーク	1999/9/11	国際交流会館
第 187 回例会	KOUSKY	(ジュニア)	エツコワールド	1999/10/9	国際交流会館
第 188 回例会	いきてよかった	(ジュニア)	げきだんはてな	1999/11/13	福井市文化会館
第 189 回例会	ダンス・イズ・ファン	(ジュニア)	アサンテプラン	1999/12/5	ユーアイふくい
第 190 回例会	うさぎどん きつねどん	(キッズ)	劇団エルム	2000/3/16	福井市文化会館
第 191 回例会	おれがあいつで あいつがおれで	(ジュニア)	劇団風の子	2000/3/11	福井県社会福祉センター
第 192 回例会	ホモイの涙	(ジュニア)	前進座	2000/6/24	福井市文化会館
第 193 回例会	それゆけクッキーマン	(キッズ)	劇団きんか舎	2000/7/2	福井市文化会館
第 194 回例会	リュウのオールド	(ジュニア)	かわせみ座	2000/9/13	国際交流会館





例会no.	作品名	例会種別	創造団体名	公演日	会場
第 195 回例会	シャボン玉博士	(キッズ)	むごん劇かんぱにい	2000/9/22	福井市文化会館
第 196 回例会	科学と学習	(ジュニア)	劇団パノラマ☆アワー	2000/11/24	福井市文化会館
第 197 回例会	おひさま劇場〜ふつうのくま〜	(キッズ)	人形劇団ケラルテ	2000/12/2	リライム
第 198 回例会	ちっともコリン君!	(ジュニア)	劇団むすび座	2001/1/13	国際交流会館
第 199 回例会	水嶋一江+ストリングリアンサン	(ジュニア)	スタジオ・イブ	2001/3/3	福井県社会福祉センター
第 200 回例会	こぶたのぶうぶ/おたまじゃくしの	(キッズ)	劇団むすび座	2001/3/20	ユーアイふくい
第 201 回例会	竹竹 (takedake)	(ジュニア)	ジョン海山ネプチューン	2001/5/26	福井市文化会館
第 202 回例会	3びきのこぶた	(キッズ)	丹下進オフィス	2001/6/2	福井県民会館
第 203 回例会	あやうしズッコケ探検隊	(ジュニア)	人形劇団ひとみ座	2001/6/22	福井県民会館
第 204 回例会	さんしょう大夫	(ジュニア)	東京ミュージカル・アンサンブル	2001/9/30	国際交流会館
第 205 回例会	まじよのフィフィⅢ	(キッズ)	ゲキダンキオ	2001/10/21	福井県民会館
第 206 回例会	きつね先生のふしぎ・・・?	(ジュニア)	劇団風の子	2001/12/2	福井市文化会館
第 207 回例会	いやだいやだのきかんぼひよこ	(キッズ)	エツコ・ワールド	2001/10/16	福井県社会福祉センター
第 208 回例会	マギー隆司「マジック笑」	(ジュニア)	ともしび音楽企画	2002/3/9	国際交流会館
第 209 回例会	ともしびパネルシアターコンサート	(キッズ)	ともしび音楽企画	2002/3/17	フェニックスプラザ
第 210 回例会	エルマーのぼうけん	(キッズ)	人形劇団ブーク	2002/6/21	福井市文化会館
第 211 回例会	笑学塾	(ジュニア)	トリックスター社	2002/7/6	フェニックスプラザ
第 212 回例会	伊藤文悟のひとり芝居	(ジュニア)	世仁乃一座フェアアート	2002/9/20-21	国際交流会館
第 213 回例会	ポケット劇場	(キッズ)	劇団かかし座	2002/9/28	リライム
第 214 回例会	Short Stories	(ジュニア)	テアトロ ヒュウゴ&イネス	2002/11/22	ユーアイふくい
第 215 回例会	ばばあちゃんのいそがしいよる	(キッズ)	人形劇団ひばぼたあむ	2002/12/22	国際交流会館
第 216 回例会	イソップランドの動物たち	(キッズ)	演劇集団遊玄社	2003/3/9	福井市文化会館
第 217 回例会	UBU-BOMI	(ジュニア)	演劇集団遊玄社	2003/3/10	福井市文化会館
第 218 回例会	しりたがりやのゾウさん	(キッズ)	人形劇団ブーク	2003/6/14	国際交流会館
第 219 回例会	西遊記〜悟空誕生	(ジュニア)	人形劇団むすび座	2003/6/27	福井市文化会館
第 220 回例会	ケロボンス・コンサート	(キッズ)	カエルちゃんオフィス	2003/9/14-15	フェニックスプラザ
第 221 回例会	ルドルフとイッバイアッテナ	(ジュニア)	オールスタッフイツツフォーリス	2003/10/18	福井市文化会館
第 222 回例会	雪をんな	(ジュニア)	人形劇団ちんどん	2003/11/28	フェニックスプラザ
第 223 回例会	あとむの時間はアンデルセン	(キッズ)	劇団あとむ	2003/12/20	ユーアイふくい
第 224 回例会	うみはぶくぶく	(キッズ)	くわえばべつとステージ	2004/2/21-22	福井県教育センター
第 225 回例会	リーダーシアター お話がいっぱい	(ジュニア)	楽劇団いちよう座	2004/3/6	ユーアイふくい
第 226 回例会	わんぱく寄席	(ジュニア)	日本伝統芸能を守る会	2004/3/20	フェニックスプラザ



おわりに ワンダーランドとしての子ども劇場

そして「また」明日へ

まちでばったりと「子ども劇場」の元会員と出会うことがあります。「楽しかったよね」何だったんだろうね、あの楽しさは「会員拡大の苦勞ばかりで、つらい事もいっぱいあったのに、なぜか思いだすのは楽しい事ばかり」と、そんな会話が始まります。家庭を持ち、子どもを産み、地域社会の一員として一歩を踏み出したばかりの私たちが、「地域に無いものは力を合わせて作りだせばいい」という至極シンプルな発想で様々な企画を生み出してきた事。そして「文化にはお金がいるのよ」と『福井東』として活動した14年間で、ゆうに1億円を超える資金を文化予算として地域に還元した事。名もない普通のお母さんたちが集まって成し遂げた事業として、この成果は誇るべきものだと思っています。

そして何よりの成果は、関わった人たちがそれぞれの中に美しいことばと音楽と美術が溶け合った夢のような空間を仲間と共有した記憶を残したことでないでしょうか。福井に子ども劇場ができてから40年余り。その間に何万人という会員の親子が手をつないで劇場に足を運び、舞台の上で繰り広げられる物語の世界に心躍らせてきました。この空間を、地域に暮らす仲間たちと一緒に共同で作ることができたという幸せ。鑑賞例会を終える度に感じていた達成感の一番底辺に、いつもいつもその幸福があったことを14年間の記録を整理しながら改めて思い起こしました。子ども劇場は、そんな奇跡の

ような出会いが連鎖するワンダーランドでした。

「私の子どもから 私たちの子どもたちへ」

いつでも何でもお金さえ出せばサービスを受けられる社会になった今、改めてこの言葉を私たちの宝物として残しておきたいと思います。人と人がお互いを思いあつて関わり合う地域社会の中で、心豊かに子どもたちを育てたい。私たちが共に目指した理想が、形を変え、色を変えても次の世代の人たちの中で新たな動きとなって花開くことを願います。

この拙い小冊子は、2004年に閉会した「福井東子ども劇場」記念誌として準備されていた原稿に、加筆して発行するものです。今後も加筆、修正ができる電子版として保存する予定ですので、当時の記録としてご提供いただける資料、写真などがお手元にある方は [fukuihigashi.2004@gmail.com](mailto:fukuihigashi.2004@gmail.com) までご連絡ください。